京城日報

本紙定價 壹部金參錢 壹ケ月金七拾五錢 六ケ月前金 一年前金 … 廣告料金 五號十五字詰一行一圓五十錢 … 發行兼編輯人 奥田直毅 印刷人 小川三之介 發行所 京城太平通一丁目 合資會社京城日報社

九月二十七日夕刊(朝夕併せて八頁)

政局展開彙報

△將に成立せんとする 對原內閣政黨態度 衆議院に於ける絶對多數黨

將に成立せんとする原內閣に對する各派の態度を察するに政友會は多年の主張に係る政黨首領を首班とする內閣なるを以て當然主義として贊成すべきも表面反對黨として個々の政策に就き贊否を決する態度を執るべく國民黨は犬養總理が外交調査會に列せる關係あり且つ多年政友會と友黨關係を持續せる行き掛もあり旁政友會の寺內內閣に對して執りたるが如き好意的中立の態度に出づるものと見るべく若し夫れ新政會清和倶樂部に至りては元來主義政見を基礎とする集團に非ず單に個人關係に依りて離合集散するものなれば原內閣に對しても亦政友會との個人的關係上反對的態度に出づるが如きことは萬々之れ無かるべく殊に實業家議員は其特色たる御用振を發揮するに至るべし斯くて原內閣は之等友黨の援助に依り衆議院に於て事實上絶對多數黨たるを得るに至るべし(東京特電)

△唯一の暗礁は陸軍 原氏田中次長との間に諒解あり 成立の曉陸相は田中次長か

原內閣の成立に對する第一の暗礁たるべきは陸軍にして陸軍側の原氏に對する感情は西伯利出兵問題以來著しく惡化し居れるを以て或は陸軍側の反對を招致すべしと說く者あり第二は假りに反對を見ずとするも原內閣に陸相たらんとする者は必ずや陸軍擴張即ち軍團組織の變更に對する大規模の豫算要求承認を條件とすべく旁陸相を得るは頗る困難ならんと云ふにあり之等に對しては多少根柢あるは首肯し得らるゝ處なるも記者の探聞する所に依れば頃日來原氏は某所に於て田中參謀次長と數回に亙りて會見し既に兩者の間に諒解あるもの、如く政友會內部に於ても右に關しては何等陸軍の存するもの無しとし何等問題と爲し居らず要するに四圍の情況を綜合するに或は田中參謀次長、原內閣の陸相となるに至るやも知る可らず而して陸軍側對原氏の感情の如きは必ずしも問題と爲らざるも陸軍擴張問題は如何に解決せらるべきや未だ知るべからず或は本年の陸軍豫算の內容は世間傳ふるが如き尨大なるものに非ず軍團編成に伴ふ特科隊の增設は一時之を見合せ或程度に止め置くと云ふに結着するに非ずやと觀測せらる(東京特電)

△原內閣組織と顏觸

原內閣成立後閣員として呼聲高きは內務大臣床次竹二郎氏元田肇氏大藏大臣高橋是清氏山本達雄氏外務大臣伊集院彥吉氏(牧野男は外調委員として原內閣援助)司法大臣元田肇氏農商務大臣野田卯太郎氏(野田氏辭退せば山本氏大藏なれば農商務高橋氏高橋氏大藏なれば山本氏)遞信大臣中橋德五郎氏文部大臣床次竹二郎氏か又は貴族院交友倶樂部より入閣すべく其他小川平吉氏の鐵道院總裁內閣書記官長高橋光威氏法制局長官小山溫氏ならんかと觀測する者也(東京特電)

△內閣組織大命 原氏へ降下

政友會總裁原敬氏は廿七日午前參內同氏に對し後繼內閣組織の大命降下す(東京至急電報)

△山本氏園侯訪問

西園寺侯は二十六日午前八時二十五分駿河臺の自邸を出で東京驛ホテルに入るや政友會總務山本達雄氏の訪問を受け山本氏は約一時間にして辭去園侯は同九時四十分別室に於いて武藤金吉氏と會談する所ありたり(東京特電延着)

△原總裁邸訪客

野田卯太郎氏は二十六日午前八時半芝の原氏邸を訪ひ約一時間にして辭去之れと入替はりに高橋光威福井三郎兩氏訪問したり(東京特電延着)

◇反革軍アルマンヴイル占領

キエフよりの報に據れば反革命軍はアルマンヴイルを占領し過激派軍は漸次南方に向ひ遁走しつゝあり(合同通信電報)

◇露廢帝暗殺否認

露國第二次臨時政府首相リヴオフ公はロマノフ一家の暗殺を否認せり(東京特電)

◇獨大使辭任聽許

駐露獨逸大使ヘルフリッヒの辭任は聽許されたり(莫斯科電報)

◇獨和議用意 宰相議會委員會にて聲言

合同通信社報=獨逸宰相は議會委員會に於て米國大統領ウィルソン氏の擧げし條件を基礎とし講和締結の用意ありと述べたり(東京至急電報)

大命降下せる原政友會總裁

◇瑞西休戰提議說 獨逸植民大臣瑞西行

獨逸植民大臣ゾルフ博士は近く瑞西に赴くべく其使命は新に開始されたる獨逸の攻勢的平和運動に關するものなりと又ケルン來電に據れば瑞西は不日各交戰國に對し三箇月の休戰を提議す可しと(海牙電報)

◇聯軍巴爾幹活躍

巴爾幹半島に於ける聯合軍はセルナ及びヴアルダー兩河の交叉點を支配し且つプリリツプを距る五哩の附近一帶の高地を占領せり一方英軍はドアランを占領し今やスツルマニツツア方面に向ひ前進しつゝあり(合同通信電報)

◇英軍要地占領

英軍はパレスタインの要港エークル並にヘーフア及びヌエス、サルト(パレスタインの中部)を占領し今やアムマン市に接近しつゝあり二ゼー將軍の報告に據れば今や英軍の獲たる獨軍俘虜は二萬五千を超過すと(合同通信電報)

▲附記 亞細亞土耳古の地中海東岸シリアなるレバノン山脈西方沿岸の地を特にパレスタインと稱す

◇英軍防守地奪取

ヘーグ元帥公報=我軍は二十三日朝攻擊を行ひて成功し過去數日間敵が頑強に防守せる堅固地點を奪取せり(合同通信電報)

◇岩崎男來鮮

岩崎久彌男は二十九日入港の新羅丸にて釜山上陸の豫定なり(釜山特電)

◇總督總監寄附

長谷川總督、山縣政務總監は愛國婦人會本部會務獎勵の爲め此程總督より百圓、政務總監より五十圓を同會費中へ寄附せり

◇定例長官會議

二十七日午前十時より總督府第一會議室に定例長官會議を開き長谷川總督、山縣政務總監を始め各部局長官に並に所屬官署長參集諸般政務に就き審議する處ありたり

◇辭令 今回左の通り辭令あり

總督府參事官兼總督府事務官 有賀光豐
免兼官(九月二十七日附)
總督府事務官 和田一郎
總督府度支部理財課長を命ず(同二十六日附)

◎殖產銀行の組織 三部十二課制=部長は理事

朝鮮殖產銀行は屢報の如く十月一日午前その本店に充てらるべき瑠璃洞湖農銀本店樓上に於て設立委員會を開き午後創立總會を開會(一)設立經過報告(二)設立費の增額(三)設立の經過を檢查するため總會にて檢查役を選擧し檢查を行はしむる件(四)理事八名(後數)の選擧及び監事二名の選任(五)監事の報酬額を附議決定即日頭取に三島太郎氏理事に有賀光豐中村光吉櫻井小一朴泳孝侯諸氏の任命を見るより開業する事となりたるが銀行の組織は十月一日總督の認可を受けて確定するものなれど其の內容は大體に於て頭取の秘書室總務部商業金融部並に勸業金融部の三部に分ち秘書室は秘書役主長とし各部長は當分理事之を掌理する筈なり各部長の配置は左の如し

總務部長 櫻井理事
商業金融部長 中村理事
勸業金融部長 有賀理事

而して課は十二課となるべく內容は詳知し難きも總務部にては文書課檢查課調查課等の配置となり商業金融部は本店の營業を司る金融課(鮮銀營業部類似)各支店の事務を監查する業務課出納課の三課、勸業金融部は專ら不動產金融を業務とする勸業課鑑定課技術課等に分つべき筈が開業匆々は課長も缺員多きを以て理事之を兼ねるものあり如何なる方面に屬理す事たるべき朴泳孝侯は重要行務に與する外當務を執らざるべし

▲各支配人進退 六農銀支配人中湖南湖農銀支配人は退職の上內地に歸還する事に決定し居り安州農銀支配人中西久男氏は休職(銀行事に付農銀閉鎖と共に鮮銀に復歸する事となり居れり)の外余の支配人たる慶尚全州咸興慶尚森永光州山本成鏡各支配人は近く入つて本店の課長に就任すべしと稱せらる

▲引繼期 各農工銀行は來たる三十日現在を以て全部を擧けて殖產銀行に引繼ぐ事となり居り何れもその準備中なるが引繼時日は十月一日若くば二日となるべし

◎朝紡工場は京城に 明年中に操業を開始せん 馬越朝鮮紡織社長の談

內地の有力實業家にて朝鮮紡織大日本麥酒の社長たる馬越恭平氏は二十六日入京したるがその談に曰く

▲鮮滿旅行 予は過般乏しき朝鮮紡織會社々長の職に就きたるが肝腎の業務を營むべき朝鮮に朝紡社長として未だ顏出しをなし居らざるを以て新任挨拶旁若干の社用を辨ずるため來鮮せし次第なり京城三四泊後要務を果さば四年以前より關係し居る撫順の化學工業會社の業務を視察し十月初旬までに歸東の予定なり

▲本工場は京城 今回朝紡の工場位置を總督府當局の意向をも承けて京中の一要務として朝鮮紡織の本社工場は前年來田邊東務等實地踏査の結果京城釜山木浦の三地最も適當なりとて候補地となし居れるが何れも一長一短あれど多分本工場は京城附近を選ぶ事となるべく釜山以下に木浦方面には事業の進展に伴ひ追つて分工場を設置するの方針なり

▲朝紡操業期 朝鮮紡織の紡績機は當初英國より輸入の計畫を立て居りしも時局の影響により捗々しく取り運ばれざりしが幸ひに最近某支那人が英國より輸入の特許を受けし一萬五千錘に若干の步打をなして讓り受くる事に交涉纏まりたり該紡織機は會社所要紡織機の一部として明年一月英國を積み出すに至るべく遲くも六月までには着荷の豫定に付京城の本工場は明年三月前後より建築に着手する筈從つてその後機械の組立其他に時日を費すも操業開始期は大正八年內なるべしと信ず

▲繰綿工場 棉作反別の增加に就ては官邊並に在鮮先進者諸彥の援助を仰ぎたきが紡織事業と密接の關係を有する繰綿工場も一箇會社として設立せしめたしと考へ居れり此分は未だ朝鮮會社令による手續等は濟まし居らざれど目下の所三井物產支店等の盡力により相當南鮮方面に活動し居れる筈なり本會社には役員の如きも朝紡關係ある人士入社し工場も慶南の麗水並に釜山等に設くる必要あるべしと考へ居れり

◎京城府收納事務規程改正

京城府稅務係にては學校組合費臨時別第三期分納稅告知書約一萬七千通を納東郵便を以て十月五日附各納稅者へ發送すべき豫定なるが既報の如く十月一日より府徵稅方法の改正に依り學校組合費第三期分府稅第二期分よりは府金庫の外尚ほ市內各郵便所又は郵便局に就き便宜納入するの便法を開始することゝ遞信官署と協定成立直ちに實施さるべき筈なり而して金谷府尹は本件に關し各町洞總代に宛て夫々注意書を配付し一般納稅者の利便を圖りたるが右に依れば京城府に於ける諸稅の徵收成績は年一年良好にて之を數年前に對比すれば殆んど隔世の感あるも內地各都市に比すれば遜色あるを免れず就ては此際一層改善の實を示すべく之れが手段として前述の如く納稅者納入の便を圖り從來金庫のみにて取扱ひし收納事務を金庫以外に尚府內郵便局又は郵便所何れにても取扱ふことに遞信官署と協定了し來る十月一日より實施の運びとなりし旨を述べ更に左の如き事項を擧けて一般周知方を圖り以て納期內完納の好績を計らさんことに努めつゝあり即ち

一府又は學校組合にて取扱ふ公金に對しては納期內は郵便振替貯金に依り京城府內何れの郵便局又は郵便所にても便宜の場所に納入することを得
一郵便局又は郵便所に於ては日曜祭日の休暇ごは總ら正午十二時迄は收納事務を取扱ふ
一郵便局又は郵便所に納入せらるれば府金庫又は學校組合金庫に納入さ同一の效力あるものとす
一郵便振替貯金に依り取扱ふ郵便局又は郵便所の手數料は府又は學校組合に於て支辨するを以て納入者は之れが納付を要せす
一納期限經過後は郵便局又は郵便所に納入の便を失ふに依り必ず納期內に最寄り郵便局又は郵便所へ納入せられたし
一振替貯金口座加入者は振替に依り納入することを得振替貯金口座に加入せざる者は現金を以て納入すること
一證券を以て納入する取扱に就いては目下審議中に付決定の上は其の取扱手續を公表すべし
一京城府廳內には常時府金庫員及び學校組合金庫員派出し居り龍山出張所內には四月五月十月十一月の間臨時金庫員を派遣し從來通り收納事務を取扱ふ
一從來納期內特設したる左記金庫員臨時派出所は自今之を廢止す
▲京城銀行▲鍾路消防詰所內▲高陽地方金融組合
一府にて取扱ふ國稅又は地方費賦課金に在りては納期內納入の分に對し國又は地方費より納額百分の二に相當する金額を府に交付せらるゝも納期經過後納入の分には交付金なし故に府歳入の上よりしても納期內の完納を希ふ所以なり

◎忠北陸地綿栽培十周年祝賀會

忠淸北道に於ては明治四十二年以來陸地棉を栽培し本年滿十周年となれるを以て十月一、二、三の三日間道廳主催となり同道內陸地棉主作地たる永同に於て十周年祝賀會を擧行し同時に棉花品評會棉作功勞者表彰式講演會を催すべく總督府よりは小原農商工部長官豐永中央試驗所長綾田總督府農務課技師等參列の筈なるが豐永博士及び綾田技師は一場の講演を爲すべしと

◎學校組合設置認可

慶尙南道南海郡彌助學校組合管理者金丸延二郎氏より發に同郡彌助尋常小學校設置認可申請中の處二十五日認可の指令ありたり

◎永興灣燈標變色

朝鮮東岸永興灣口石根柱燈立標は從來紅光を以て附近に在る岩礁を示したるも十月三十日限りこれを廢止し同日以後全部白色を以てする件は九月廿八日告示さるべし

◎鑛業登錄(自九月十六日至同十九日)

▲鑛業權設定
金銀銅鉛亞鉛鑛 黃海道瑞興郡瑞興面 十八萬三千七百五十坪 合名會社鈴木商店
炭 平安南道德川郡蠶上面 七十二萬三千六百六十坪 伊藤長藏
金 鐵 江原道淮陽郡上北面、咸鏡南道安邊郡衛益面 五十八萬九千五百坪 片兆九、金鴻鳴、崔秉道
金銀銅鉛亞鉛鑛 慶尚南道密陽郡丹城面 七十七萬三千四百二十八坪 南才三
炭 平安南道德川郡蠶上面 八十五萬八百三十六坪 伊藤長藏
鐵 咸鏡南道文川郡都草面 四十八萬七千九百九十三坪 張斗鉉、趙東喆

▲鑛業權移轉
江原道洪川郡斗村面 慶尚北道星州郡碧珍面 平安北道朔州郡南西面 重本茂八 吉崎功三郎

▲鑛業權消滅
全羅南道咸平郡新光面靈光郡佛甲面 東部拓殖黑鉛株式會社

取消

▲共同鑛業權者脫退
慶尚北道清道郡梅田面 岡內平左衛門脫退す

◎正副總裁歸鮮期

東上中の朝鮮銀行總裁美濃部俊吉氏は二十八日東京出發鮮銀秘書役を帶同し鮮銀本店に入る定あり多分三十日着京すべし又副總裁[illegible]三郎氏は二十五日東京發下阪し披露宴を張り三十日午後九時十分南大門驛着列車にて歸任永樂町副總裁舍宅に入るべしと

◎櫻井氏入京

前仁川稅關長櫻井小一氏は既報の如く殖銀理事に就任する事に內定し居れるが二十八日午後二時南大門驛着列車にて入京すべしと

◎東市議員歸京通知

先般鮮滿並に南北支那に於ける都市計畫調查委員として來鮮せる東京市會議員岩松兼德氏外十三名及び東京市技師田村與吉東京市主事秋原安太郎同市會書記長八田五三の諸氏は無事其の任務を果し本月上旬歸京せる旨本社に通知ありたり

人事消息

▲松浦充美氏(大阪實業家) 廿六日元山へ
▲大久保到氏(全北第一部長) 廿七日朝退京
▲村田素一郎氏(總督府營繕課長) 二十六日附十日間の豫定を以て咸南新興出張所に於ける保管金出納狀況視察の爲出張を命ぜらる
▲日向辛太郎氏(總督府學務課長) 二十六日附十日間の豫定にて咸鏡南道に於ける公立學校長會議臨席並學事視察の爲出張を命ぜられ廿七日朝出發
▲保科正昭子(總督府鐵務課技師) 二十六日附二十一日間の豫定にて咸鏡南道營繕部へ出張を命ぜらる

茶前酒後

◆大戰局の漸進と共に、各國の活動は外交に集まり、各々得意の手腕は、隨所に面白き現象を來すべし。吾人は交戰各國に於ける、外交官中其行動に對して、最も多くの興味を以て、臨まんとする者は獨逸外相ヒンツエ也。

◆獨逸海軍中將フオン、ヒンツエとは如何なる人物か、彼は大戰前は露國駐在獨逸大使館附武官にして、戰中支那公使として赴任し、更に大戰中支那公使として來任せる經歷を有す。單に之れ丈けなれば、彼も亦平凡なる外交官の如けれど、過去に於ける彼の活動は、實に活ける小說也、全く探偵小說の主人公の如し。

◆彼の有名なる墨國大統領フエルタとカランザ將軍との間に葛藤を生ぜしめ、米國の武力干涉を招かしめしも彼也。而して彼は大戰開始と共に、大膽にも石炭積の人夫に變じ、敵國英船に便乘して和蘭に赴けり。デルンブルと推薦に依り、支那公使として赴任せんとするや、桑港より乘船出發の報、英國政府より時の我大隈內閣に到着せり。我政府は彼を獨逸軍人として捕へんとし、横濱に吏を派して密に其來着を待たしめたり。然るに横濱寄港の汽船には、彼の姿だに無く、全く彼は太平洋上に於て行方不明となれり。豈ご知らん、日本警官が横濱に、彼の姿の見へざるに、啞然たるの時、彼は悠々として北京に入れりとは。彼は太平洋航行中、通りかゝりたる石炭船にて、巧に支那に直接上陸したりし也。

◆北京に入れる彼は、直ちに袁世凱に取り入り、彼の黑幕となり、獨支の關係を密接ならしむるのみならず、支那をして露國を背面より攻擊せしめんとするの策劃をなし、西伯利鐵道の隧道破壞の陰謀を企てしも、途に發覺して放逐さるゝや、身を水夫にやつして無事伯林に歸れり。

◆獨逸外相の手腕は、實に斯の如し、眞に神出鬼沒の觀あり。彼愈獨逸外交の主人公として、其抱負を實行せんとせば、如何なる破天荒の計畫を以てせんとするか。定めて人の意表に出づべき、奇々妙々なる獨特の活動を示すべく。獨逸の消長よりも、ヒンツエの一擧一動が吾人に多くの感興を與ふ。

少年少女の好讀物
八島柳堂先生著 古賀雄治畫
教訓お伽噺
菊判上製 二百七十頁 定價三十五錢
面白い、面白いおはなし
悲しい、悲しいおはなし
讀めば、屹度お爲になる
發行所 京城大平通 振替二〇〇番 京城日報社代理部

大東土地株破格提供
資本金六百萬圓第一回拂込金百五十萬圓にして放資家の垂涎措く能はざる大軌沿線の地域を買收して土地經營を爲すものなり…
現株賣買及信託業 清水廣之助商店 大阪市東區北濱一丁目 電話本局長七六七番 振替大阪一九六九八番
地方代理店增設に付希望者は詳細規程請求あれ

稻扱器 唐箕 萬石 籾摺臼 米篩及籾通
◎一般稻扱修理に應します
◎慶尙南道稻扱修理傳習所(九月一日より開催)
朝鮮勸農商會 釜山本町二 電話長九六二番 振替京城一五四八

新會員募集 學期
寫眞術速成講義
人物寫眞修整術
寫眞術は高尚優美應用範圍頗る偉大なれば以て營業となすも又娛樂とするも其益多大にして趣味最も深し…
東京市牛込區 大日本寫眞學會

稻田は黃金の波
此際成績第一の本機を備へよ
自動扇風機裝置 ナショナル精米麥機
大王 (商標 登錄)
精工商店 東京淺草區誠訪町二〇 電話下谷二七一七番 振替東京一二六六八番

資本金壹百萬圓
株式會社 京城 漢湖農工銀行
不動產抵當ニテ長期低利ノ貸出致候
支店 開城、春川、公州、清州、忠州、論山、鐵原、鳥致院
所在地 江景、大田、遠山、熙山
普通銀行業務は確實親切に御取扱可申候

從軍寫眞畫報

(上)右ハバロフスクの師團司令部に於る大井師團長 (上左)雷中隊長、川名市橋大尉 (下)騎兵○○聯隊の軍旗ハバロフスクに向けて進發

本社從軍記者 金谷眞撮影

西伯利從軍記

▽ハバロフスク迄

浦鹽から三日かゝって

二百邦里の烏蘇里鐵道沿線は我十二師團の敵を急進擊せる跡ならざる無し

從軍記者 金谷眞

(前略)浦鹽からハバロフスク迄川沿ひの鐵路を眞北二百邦里の道程烏蘇里鐵道の沿線はわが第十二師團の敵を急追擊せるあとならざるはなしわれ等は一度戰線より歸つて九月十二日正午再びハバロフスクへ急進するこゝなつた、浦鹽ステーションでは朝鮮銀行の股野貫之氏他三名が同じく哈市に向はれるので堤氏及び松田銀行の安達支店長などの見送りがあつたい汽車は相變らずの貨物列車

一同米叺の上に

毛布を敷いて

豚の如く馬の如く積込まれた、浦鹽からウゴリナヤ(露國の石炭こいふ意味蓋し附近に石炭坑ある故なるべし)までは左手にアムール灣の碧水が見ゐるラズドリノエは鮮支露三族聯合の馬賊の出る處わが成北の羅南こ相對立した堂々たる軍營がある地圖に見ても七八十邦里の近距離圖門江の國境を距る五十邦里程の地點である」ニコリスクは哈爾賓への岐れ道

此の邊は朝鮮人

が非常に多く

市には近く鮮人の中學校が出來る」こいふのであつた露國の記念碑に猿器の豹擺きしつゝ大雄飛を試みんこするものがある、石碑は烏蘇里鐵道の竣工したる記念碑で今から二十七年前アレキサンドル三世の時代一八九一年五月十九日起工してニコライ二世の一八九七年八月三十日に竣工した旨を記してある、貨車に睡れば驛からは程遠きニコリスクの寺の

高塔に赤い夕日が

沈みしつゝあ

つた、夜半二時スパスカヤの驛につく『貨車は此のまゝ此處に停まる』このはなしに安心して下車した者は總て振り落されたまゝ汽車は出て行つた、八月二十四日の戰爭後わが第十二師團司令部のあつたウスリーは朝の六時頃通る、ウスリー河畔の鐵橋に近く米國兵の大砲を見る勇敢なる米國の陸兵は常にわが軍の後方から跟いて行くその天稀の一子案れざる有樣

附近の清潔なると

軍規の正しき

と等何れにしても米軍は偉いまたその炊爨の御念のいつたこと清潔なこは到底梅干し握り飯の日本兵などが及びもつかぬはなし米軍の陣容は實に堂々たるものである米國兵は斯の如く御馳走を食ふだけそれだけ自分の身體が千金萬金に値するとを知つてゐる、銃彈の雨飛するあたりに飛び込むとはこても豫想珠に彈いて見て勘定に合つた話しで"はないこ"をよく知つてゐる總ての點に於てわが日本軍などは到底彼の足許にも及ぶものでない偉なる哉米國軍!!!

過激派

を八ツ裂きにしても

足らぬと思つ

て居るチエックご哥薩克野を見れば一樣に黃い秋の草黠々野菊や女郎花、桔梗などの紅紫こりん〳〵なるもうれしく左右の遠い山影は紺青に染ゐて折々澤から鴨が飛び出す一マンの驛で買物する兵士が『私も京城に居りました』こざい挨拶によく聞けば京城中學の柴崎校長殿に厄介になりましたこいふ阪本君であつた、此の邊には

巨な鯉が捕れる

尺五寸位なのが一尾四十錢位である、朝の九時イマン驛に著く此處は浦鹽こハバロフスクの丁度中間にあたる驛には奧地からの避難民が居たわが騎兵が武裝せる敵の汽船三艘を捕獲したのは此の附近のイマン河である、フンフウザこいふ驛につく支那語の『馬賊』こいふ驛名で隨分物騷な名稱だこ思つて居る

『只今捕虜を捕

へました』この兵士の挨拶、下車して見るこ捕虜は過激派の將校で二名であつた、召集令狀、過激派の紙幣、火藥、軍旗等々動かす可らざる諸據物件が現はれたので愈々それこ決定した、その中の一人はよく喋りつゝ否認し、一人は只沈默した偽標章をふかしてゐて哥薩克が捕虜を引渡して呉れこわが莴城大尉に申し込む『よろしいお渡しする』こいふので

縄のまゝ引立て

られた、可哀さうに銃殺されるのだが……』こ一人の兵士がいふ、煙草の捕虜は泰然こしてゐるが注意して見るこその指端がかすかに打ち顫うてゐた『莫迦な奴さハバロフスクから逃げ出して山の中ばかりを迂路つき廻り、此のあたりでソロ〳〵大丈夫だなご思つて線路に出たのが身のつまりさ、今朝向ふの鐵橋守備兵に捕まつたんだ……こ』

兵士の高笑ひ

『哥薩克はあれを直に殺すのか許してやればよいに……』こ一人の擬架にのつた日本兵士がいふ『莫迦なお前は昨夜過激派から足を襲たれたぢやあないか、步哨に立てやられるなんてなんごこかい、しつかりせい〳〵!!!』こ一人が叱つた、捕虜の始末を訊いて見るこ多くは露國人同志の處分に任せて

日本軍はこれに

與らぬこいふとであつた、兎に角チエックご哥薩克こは過激派を八ツ裂きにしても足らぬこ思つてゐるらしい敵も赤聯合軍に對し思ひ切つた亂暴をする、曾てわが軍の上等兵を捕へて電信柱に縛しこれを燒殺したともあつた、頭川イマン以北の沿線ではよくこの種の脫走兵が捕まる幸ひにして日本軍に渡れば

兎も角も他所に

行けば皆銃殺されるやうである、『許してやればよいに……』自分は死こ對面した此の捕虜に對し今一度わが負傷兵の言葉を思ひ出したビギン驛近くなつてから今迄線路の左右に展けた山は行手に塞がり汽車は巨きな河流に沿うた森林中に入る、見れば分列式のやうな白樺の密林に枞の木、落葉松が打ち混じつて

河の筏に丸太建

のお寺等河畔のステーションには材木の山を築いてある過激派の破壞を免れた、大鐵橋を渡ればビキン驛、此處には大規模の製材所もあつてあたりは山紫に水清く、綺麗の步兵第廿四聯隊本部を始めわが陸軍の無線電信局等もあつた、沿線は皆山ばかりウスリー河を一つ渡れば對岸は支那の吉林省

日は暮れて西瓜

のやうな月が出た、驛にバラライカ(露西亞の月琴)を彈く漂泊人がゐる『烏蘇里通れば尾花が招く月に泣くかやバラライカ……』は如何に御座候や

で

月が出た

白樺の森に月が出た!

博多訛の武功譚

白樺の森に月が出た、貨車の中には內地で十二月頃の風が來る、一日また叺の上に固くなつて寢る、敵な蠟燭の灯影に自分は步兵廿四聯隊の兵士こ語つた、兵隊さんはみな鐵道守備こなつた博多附近の者である『私達こ小倉の十四聯隊こは八月廿四日クラエフスキー附近でイサギエヤりましたタイ、十四は左翼に私等は右翼になつて前進しましたタイ何分こちらは砲兵が無カトでせう

敵にはウンとあ

るトでせう、なあに構ふもんかテウて前進しましたハア、中隊縱隊になつたまゝで……それにはじめから突擊ですタイウワア!ウワア!であの森林を突破する時の氣持ツたらありませんタイあの時五中隊の綺麗な散開、機動演習の時だつてあんな落付いた風は出來ませんタイ、それに愈

森の中に接近し

て四五十米突になつた時、逃げる奴に彈丸が中るの中らぬのッてソリヤアはなしになりません、お剩けに兎や栗鼠の奴まで飛び出しますからな……』こ武功ばなしは次から次こ頼りにはづむ、月は愈冴わた、『此の月ア岳やらうな、あちらは日本の方角だやらう』こいふ人がある、中には

西比利亞の冬は

什麼ぢやらうこ心配する兵士があるので自分は彼等の杞憂を解いてあげた『暖かい防寒具が充分に給與されるから心配はない、斯うやつて紅い帽子で西比利亞に乘り込むとを誰が二年前に想像しようか全く『陛下の御稜威ですな』こいふこ一同は『陛下の御稜威ですタイ』こ鸚鵡返しに繰り返して

淋しい驛に降り

て行つた、此の時福岡大名町の人で田中傳次郎こいふ後備の軍曹殿にも逢つた、此の人は風俗習慣の相異から我兵士こ露人間の笑ひばなしをして盛んに腹の皮をよらせたものであつた、それにクラエフスキー附近で三原井五旅團長がわが機關銃隊の後に立つてゐたとを語つた『何分六人一人の割でやられたこころへ

旅團長閣下が立

つてゐられるでせう、驚きました大勝後機關銃隊の間を閣下が馬で通られて『御苦勞やつたなう』こ莞爾こされた時、私共は愧しさが身にしみ込むやうでした……』こ語つた

眼下に在る

ハバロフスク

九月十五日の朝こなつた、浦鹽を出てから三日目の朝こなつた、われ等の汽車はまだ大森林この白樺分列式の間を走つてゐる、風が寒くて手が冷たい、クラスノヤレーチカを過ぎて森を出るこ、向ふに高いお寺の塔が見え出した、ハバロフスクだ!ハバロフスクだ!汽車が沼澤地の平野を駛る間に大きな赤煉瓦の兵舍が見え出す廣い黑龍江の水が見え出す、ハバロフスクは今われ等の眼下にある(汽車中にて)

◎暴風雨に軍隊出動

京都被害甚大

暴風雨の爲め京都、木津、桂、宇治の各川氾濫し浸水家屋一萬こ稱せられ電信電話の損害甚大にて軍隊警官等出動せり(京都電報)

◎復暴動

富山縣に於て

富山縣高岡に於て廿五日夜復尾の暴動發生せりこの說あり(東京特電)

◎鮮人夫四十名入亂れて格鬪

重輕傷十二名を出す

去る廿日夜十一時より約三十分間に亘り黃海道載寧郡[illegible]中村組鮮人[illegible]

▲三菱鐵山 上海浦鹽石炭積込三和組鮮人人夫約三十名こ[illegible]間に鬪爭演ぜられ十二名の重輕傷者を出せし事件あり今其顚末を記さんに同夜十一時頃中村組の兇漢用、魯某吾の兩名は酒氣を帶て飲食店雅風館に至り飲用の水を求めしこころ其場に居合せたる三和組の朱相龍は兩名の

▲態度無禮 なりこて之を責め爭論の結果朱は拳を以て兩名を毆打し呉、魯兩名は有合せたる獲物を持つて朱の頭部を亂打し裂傷を負はしめたり、然るに中村組の人夫十一名は三和組人夫に對し小索反目せし折柄こて此事を聞知するや互に酒を呷つて勢ひを附け三和組の人夫の宿所北他より同組の人夫約三十名を

▲狩り出し 棍棒を持つて不意を打たれば三和組にては重輕傷十名を出し中村組にては同二名を出せり、右急報に接したる所轄憲兵分隊にては即時憲兵及び補助員四名を現場に急派したるが[illegible]て被害者の應急手當をなさしむると共に加害者と認むる十一名を檢舉し同分隊に同行し目下取調中なるが多分送致さるべしこ

◎露廢帝遺骸發掘

オムスクに送りて假埋葬

露國廢帝の遺骸は死刑を執行されたる森林中より發掘され葬列を以てエカテリンブルグに運ばれたるが假埋葬の爲めオムスクに送らるゝに先だちエカテリンブルグの寺院內に公式に安置せらる可し(莫斯科電報)

◎漁夫二十三名

行方不明

靜岡縣下の暴風雨被害 靜岡縣榛原郡地頭方村漁夫松田[illegible]外二十三名は二十四日午前石油發動機船にて航海の途次同郡御前崎沖合にて暴風雨に襲はれ破船沒行方不明こなれり(靜岡電報)

◎洋畫同志會

展覽會開會

出品點數百餘點あり

既報の通り廿七日より廿九日の三日間南米倉町京城倶樂部に於て開催する洋畫同志會展覽會は朝鮮に初めて生れし眞面目なる團體の事こて全鮮各地よりの出品申込み者意外の多數に及び發起人の諸氏[illegible]務員等は頗る應接に忙殺されつゝありしが愈豫定の如く廿七日九時より開會せり出品總數百餘點の內主なる出品は石田氏の城壁、靜物、高木氏の夕暮、驛の夕日、殘照、山本氏の翠陰、京味、[illegible]、丸野氏の初秋、鷺浦、水くむ少女、吉田氏の二曲屛風孔雀、小熊氏の靜物、秋、茂木氏の初夏、

◎從軍記者出發期

北滿派遣第三師團司令部附こして從軍す可き本社記者早川己之利氏は旅裝整ひ愈二十九日朝出發北行戰地へ向ふ可し

◎京城大阪間

電信線故障

京城大阪間電信線は二十六日朝より渡鮮海中に故障起り使用出來ざる爲め大阪方面この通信は當分遲延を免れずこ

◎京城庭球會 組織

會長に美濃部鮮銀總裁

今回京城庭球會組織せられ會長を美濃部鮮銀總裁副會長に久保京管局長高野三井支店長を戴き評議員十七名常任幹事十一名幹事十名を置き將來の獎勵會員相互の親睦融和を圖るものなりこ

◎山椒の實から石油代用の油

石油暴騰の結果慶北星州郡の出來事 慶尚北道星州郡伽泉面秀用山附近の鮮婦人五六十名は毎日秀用山に登山し山椒の實を採取し之れを乾かして油を搾取しこれを石油代用品に使用しつゝある由なるが右品は實一斗に付油一升を得らるゝ由

◎子供好きの優しい先生が新しく

來て日米子供會二十八日の土曜から開會

日米子供會は既報の如く休暇も終へて廿八日の土曜日午後三時より倭城臺なる愛國婦人會本部に於て開會する由なるが今度見ゐた先生は今夏ワシントン大學を優等で卒業したスボルデン孃で今までは專ら學業にのみ親しんで居られたのでこれから社會の樣子を實際に研究せんために來遊したのであるが追々西伯利の戰ひが擴大せらるれば親しくこれも見學したいこの希望を持つて居られるこの事であるが孃は非常に優しい子供好きな先生であるこの事なり

◎農業學校長から炭屋に轉業

國有林の拂下げを受けて木炭を販賣する

大邱府在住慶北大邱公立農業學校長西尾之雄氏は去月迄大邱公立農業學校長なりしが退職後は專ら實業に從事し現下木炭の暴騰により需給關係圓滑ならざるを憂ひ今回國有林拂下げを受け自ら製炭業に從事し製品は大邱に於て廉價販賣を爲す計畫にて目下其の準備を進め居れるが該事業の計畫地は慶尚北道漆谷郡架山面所在乾山にして四百餘町步の國有林野あり至極製炭事業に適する土地なれば愈着手の上は製品は大邱に搬出し諸官廳に對しては諸雜費を引去り一俵五錢の利益を以て廉賣を試むこ云ふに在り該事業の資本は多分朝鮮銀行大邱支店より貸出さるべしこ

◎日本赤十字寄附

慈善音樂會

鐵路青年會主催にて 廿七日同會館に開催

鐵路中央青年會主催の下に西伯利派遣日本赤十字社救護事業費に寄附する目的にて今廿七日午後八時より同青年會館に慈善音樂會を開催し在京外國人有志及び內鮮人音樂家諸氏が特に好意を以て出演する筈當夜入場料は一圓、五十錢、卅錢の三種にして同收入は全部を赤十字社に寄附する計畫なるが故に一般篤志家の多數參聽を希望する由

◎宗信丸修繕 鎭南浦沖にて沈沒今回引上げたる朝郵汽船宗信丸(二百三噸)は長崎にて修繕する由

にて廿日[illegible]山に到着せりこ

◎横領店員

[illegible]當時京城永樂町[illegible]方塗師見習野崎吉平(三)は本月九日店主の命にて本町三丁目[illegible]藥店より求めたるアルコール代金二圓を支拂ひ主人よりは十圓[illegible]を顚り[illegible]剩錢は總て費消し[illegible]たる[illegible]本町署に捕へられ取調べの結果前科三犯の曲者なるこ判明し檢事局に送られたり

◎遊興費を窃取

德島縣德島市生れ當時京城明治町二丁目五番地中村方寄食三津[illegible]は[illegible]中村方同居の[illegible]所有の[illegible]一枚を窃取して入質し其の金を以て新町遊廓に遊興費消せし事判明し窃盜罪こして檢事局に送らる

◎食料品其他入札 京城[illegible]にては今回食料品[illegible]の入札を[illegible]十日午前十一時にして[illegible]に注意せらるべしこ

◎學用品携帶の仕方は

兒童の體格に影響する

▲獨逸では早くから此點を研究して居る、汽車又は電車で通學するのは心身上好ましからぬ影響を與ふることは學者の調査で一致した說である其れは

◇寄宿で生活 してゐる兒童に比較して一般に成績が惡く身體の發育も惡ければ注意力も弱く散漫なので分る次に兒童の[illegible]學校用品の携帶に就ても[illegible]すべき重大な事がある其れは[illegible]が延長して居る場合學校用品の[illegible]を[illegible]に使へなくする[illegible]路を往復する[illegible]

◇背嚢でも重 量[illegible]ドイツでは背嚢の總重量が兒童體重の九分の一乃至八分の一を過ぐるを許さぬこ云ふ規定になつてゐる幼少の子供が重き學校用具を片側の[illegible]で携帶するこ肩胛部は下行し[illegible]は胸部で彎曲するのである此の[illegible]を補償する爲めに腰椎部は[illegible]側で彎曲し遂にエス字狀の彎曲狀態を生ずるのである脊柱[illegible]けるは[illegible]ばかりではなく胸部の一部分をも固定して其が呼吸を障害するのである其故學校用品中の重い物は學校に置くやうな設備が必要で學校で使用せぬ書物は携帶せぬやうにせねばならぬ

演藝案內

◎大正館 黃金町 電話八七三 九月廿七日より[illegible] 『國敵』 全四卷 [illegible]

◎壽座 新派[illegible] 『女氣質』 全四卷 [illegible]

壽座 本町 電話[illegible] [illegible]

彦左衛門 隱密 [illegible]

黃金館 電話三三六六 [illegible]

片絲 全十二卷 [illegible]

白石噺し 百五十八場 全三卷

遺傳の罪 全四卷

浪花館 明治町[illegible] 電話二六〇 [illegible]

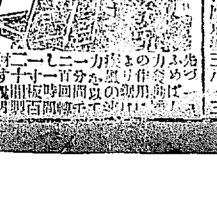
壽館 本町[illegible] 電話一〇五〇 [illegible]

有樂館 [illegible]

雨と涙 [illegible]

灰色幽靈 [illegible]

夏 冬 絨 服 小倉 洋服
陸軍 拂下品販賣
軍隊拂下品一式
和洋古衣服類一式
新調洋服類
外毛皮 駒寄 各種多數
官衙 拂下品 商 金子商店



大阪江戸堀 帝國特許 機械製作所

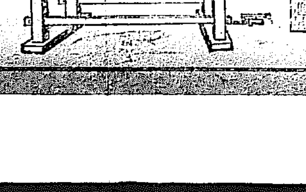
金牌受領 [illegible]

髮を黑くつやを出す 本舖 大阪 三宅堂 [illegible] 油

新栗 製 [illegible]

栗甘美 本町 電話四九七 番 鶴屋

專賣特許 國益製繩機械
帝國式 輪轉稻麥扱機



東京上野停車場前 內外農器商會

常夫、高橋勝國、同ちよ、鈴木はつ、成瀨[illegible]、服部好太郎、山內靜子、富士原耕三、[illegible]

天氣

日出 六時二十五分 日沒 六時十三分

仁川 [illegible]

大連より

◎大連埠頭の怪火と共に世間より猜異の眼を以て見られつゝあるは大連露西亞町露國寺院敷地問題なるが此の露西亞町敎會堂敷地は約五千坪にして我關東州租借後露西亞に對する情誼上特に其の民有を許可したるものなるが其後敎勢委靡して振はず敎會堂は殆ど名のみにて無用の長物となり管理者も持て餘しの結果賣却する事に決し數年前其の買收方を滿鐵會社に交涉したり

◎露西亞町一帶の地は殆ど滿鐵の管理する所にして同寺院敷地を得る事は頗る便利なるを以て滿鐵會社はこの賣却の交涉に應じたり始め此の交涉を滿鐵に提出したるは露亞銀行支配人の某にして累次交涉の結果在北京露國大使ℐレーセントの承諾をも得て滿鐵會社は遂に其の賣買契約書に調印せり然るに其後に至り交涉の露國當事者は當初の賣買價格約二十五萬ルーブルに對し露貨の下落を名として一躍四十萬ルーブルに値上げせん事を求め來れるが滿鐵は各種の事情を參酌し此の要求を承認したり

◎右の交涉に就きては都督府にも依賴し露國領事をも經由し完全に契約を締結したるものなるが愈々實地受け渡し代金授受といふ場合となり意外にも露亞銀行支配人より破談的要求を滿鐵に呈出したり即ち支配人は更に突飛なる賣買價格の値上げを求め他に買入ある故此の要求容れられずんば止むを得ず他に賣却すべしと背信不德の交涉を敢てなしたり滿鐵も斯の如き再三の要求に應ずる事能はず其賣買契約を破棄する事となりたり

◎此の奇怪なる事件の裏面には日本人某が潛み居たる事は諸種の事情に由り事實明白となりたるが

◎先頃日本人某の名儀を以て競賣に附せられたるが帶に短し襷には長しの中途半端の土地とて入札者少く競賣は見事に失敗に了りたるは因果應報と云ふべく彼等背信不德の連中は圖々しくも更に之れを滿鐵に賣込まんと目論見中なるが此の問題にて散々踏み付けられたる滿鐵が果して彼等の有利なる條件にて交涉に應ずるや否や疑問也

◎電話の自由

交換機（大連）

◆世界で僅數に在る許り◆

大連市にては二千有餘の既設電話では間に合ず明年度は更に四百口を增加する事に確定し三千以上になるのは茲一兩年の間であるが爰に苦痛を感ずるのは交換手問題で其增員に關しては何時も當局が頭を惱まして居るので寧ろ英國に於て使用しつゝある自由交換機の設備を整へ交換手を要せずして自由に通話の出來る最新發明の機械を据る方が大いに利益であるとの計畫もある右は東洋は勿論米國でも未だ實施されないものであるが獨り倫敦で試驗的に架設せる程甚だ斬新な機械である此工費は約八十萬圓を要し大正十年迄には完成すべき計畫である（奉天）

◎こゝ一週間

◆大連地方の輸送復舊◆

昨今大連內地間定期船は從航し膨しき貨物を積載し來れるが滿鐵埠頭に於ける貨車も大不足にて平時の半數に減じ居れるを以て各船の積降し荷役に差間へを生じ旅客手荷物の如きも著船後四五時間を經ざれば受取り難き有樣にて一般に甚だしき不便を感じ居れるが茲一週間內外にて復舊の見込みなりと（大連）

◎滿洲に勃興せる事業

砂糖製造と羅紗製造及製鐵

南滿製糖會社の有望なる製糖業

南滿製糖會社が設立されてから滿洲農業界に對し一種の有利事業が增加した、それは即ち甜菜栽培事業である、從來支那農業者は高粱大豆粟等より外には餘り他の耕作を奬勵しないそれが爲め此廣漠なる

滿洲の肥沃の鏡土

から收穫される農產物は土地の面積に比較すれば極めて貧弱なものである（煙草蔬野菜荷物等なるもそは特別作物とす）然るに製糖會社設立以來

甜菜栽培事業が

獎勵され甚だ有利事業として支那人間に漸次發展される事になつた尤も同會社は自己の原料の增加を計る爲め一二年富籤的獎勵金を付け其栽培をして居るから投機慾の強い支那人には甚だ適法であつたのかも知れぬ其抽籤は何程の耕作に對し籤何本と云ふ割當になつて居り廣漠の土地を栽培すれば其富籤の數を澤山得られる事になつて居る

頭彩當籤一千圓

二彩二百五十圓三彩百圓と云ふ順序で當籤の數は甚だ尠くない之等に獎勵されてか滿洲甜菜栽培は年々非常な勢ひを以て激增しつゝある今試みに甜菜栽培より支那人が收穫した所の例證を示めせば滿鐵沿線新城子安心臺に於ける張景奎の耕作地其畝數が二十畝であつて其賃收代金が三百十一圓新城子小鮑家萬子史孝林の耕作地其畝數が二十五畝で代金六百四圓七十三錢を賣收して居る此等は

一畝の平均收穫

が二十圓四十一錢になる譯である此等の點から推しても甜菜栽培は益々發展される事明瞭であるそれで昨年中に收穫された甜菜代金が全部で約十四萬八千圓である昨年は旱魃であつた爲め發育しない所もあり殘り畝數が二萬畝位だつたから丁度十畝の耕作地から七十四圓平均位を收穫した事になるそれで今年は植付畝數が殖ゑて

現在三萬九千畝

であるから十畝で三萬五千斤を收穫すると假定して總計一億三千六百五十萬斤假りに百斤三十錢と見積つても總計金額約四十萬九千五百圓になる譯である其他苦力賃馬車賃を加へ支那人の手に入る金が少くも五十五萬圓以上になる事は明瞭である

目下試作期である

爲め種子の不適合の點もあり耕作法にも慣れて居ないから充分と云ふ事は出來ないが種子の改良完全となり耕作法等嚴適法を見出せば尙ほ增收の見込みはいくらでもある右の如き諸點より推して滿洲甜菜栽培は必ず發展する事と斷言するに憚らない

滿洲製絨會社

資本金一千萬圓

今春來內地資本家の問題となりつゝあり、滿洲製絨會社は其機運漸く熟し今回其中心人物等の渡滿と共に具體的進捗を見るに至り資本金は製糖會社と同樣一千萬圓位と定め原料を得るに至便なる奉天に其本社及び工場等建設する事に決し目下各方面に亘り奔走中なり滿洲に於ける各種の獸毛は其質餘りに優良ならざるも而も

量に於ては莫大

なるものあるを以て精巧なる機械を利用し化學的智識の應用に依り何分其質を改むる事を得べく愈々事業開始するに於ては必ず根本的原料の改良等にも着手すべく必ず一大有利事業たるや疑ひなかるべし同社設立委員長たるべき某氏は

奉天を中心とし

各方面に涉り調査を爲し二三日前北京に向け出發せり同日再び來奉し其事業方針等の細項目を公表するに至らば正確なる事項明瞭たるべきも今の所只設立てふ事のみ發表を見るに至れり

奉天の製鐵所

滿洲小鐵鑛の有望事業たる此頃世人の注視する所となり各地に其採掘を出願するもの續出し從つて其精鍊工場も漸次增加しつゝある形勢なる事は已に報道せし所なるが奉天に於ては未だ此種の設立を見ず何人かに依り必ず建設さるべく期待されつゝありしが奉天附近に鐵山なく且又大連方面に於ける如く屑鐵及び釟力府等も其多量を得る事困難なるを以て一般に手控へし今回牧野氏に依り極めて小規模なる試驗的工場を設立する事となり同氏

個人經營にして

資本金五萬圓を以て目下總領事館に出願中なりと云ふ併し漸次發展されつゝある奉天に同工場を以て滿足する事能はず將來或は合資に依り大々的鐵鋼所の設立あるべしと目下頻りに取沙汰されつゝあり（奉天）

◎安城學校組合　安城學校組合會議員選擧左の如く當選せり（奉天）中村重三、砂川松造、佐藤長次郎、武田安太郎、山北伴、町川八熊

◎製鐵所（續）

八幡製鐵所長官　白仁武氏談

然るに我國に於ては從來工場組織の經驗も無く製鐵業に關する經驗は尙更ある可き筈も無いのに突然製鐵所の創立を企畫した次第であつて其の經營の容易ならないのは當然の事である、故に創立以來種々の困難に遭遇し損失に損失を重ね屢々世間の物議を招いたのではあるが漸次技術の熟練と經營の進步と相俟つて作業狀態は幸ひに好況に向ひつゝある今

作業開始以來の

成績を表示すれば左の如くである

會計年度	損益
三十二（益）	二三九,二〇六
三十三（損）	二三,六七八,六二四
三十四（同）	一,二六七,二五二,九七六
三十五（同）	一,三四九,七七八,九〇〇
三十六（同）	九八一,一八四,七七六
三十七（同）	九九〇,一七五,四三七
三十八（同）	九六三,一九三,五七九
三十九（同）	一,六九七,五一一,九六二
四十（同）	一,六九四,二四七,〇五五
四十一（同）	一,二八〇,六八三,二七二
四十二（同）	八八〇,九六二,七三二
四十三（益）	五二,〇〇二,七四四
四十四（同）	一,五四六,二八五,七五〇
大正元（同）	四,八三八,七六四,四五二
二（同）	四,四〇四,八六〇,一九三
三（同）	六,二五四,五五〇,二三六
四（同）	一三,五〇七,八三三,五五三
年（同）	三〇,五五七,五七二,一六四

尙は創業以來の銑鐵及び鋼製品の產額を表示すれば左の如くである

會計年度	銑鐵	鋼製品（噸）
三十三年		四,九九六
三十四年	三〇,〇四一	二九,七三一
三十五年	一〇,二一七	三八,五〇五
三十六年		
明治三十五年七月二十八日より同三十七年七月二十二日迄作業中止		
三十七年	三三,五〇三	五八,三九六
三十八年	八八,四四一	六五,八七四
三十九年	一〇〇,五七〇	六四,二七五
四十年	九六,七五八	八五,〇六〇
四十一年	一〇三,〇七〇	九六,七四八
四十二年	一一六,〇五九	九六,九三三
四十三年	一二九,一二一	一六〇,三二九
四十四年	一四七,八八〇	一八一,四九三
大正元年	一七七,七一四	二〇七,二七九
二年	一七八,七一四	二二六,三二七
三年	二二一,六七六	二三三,九二一
四年	二六四,七三四	二六七,三六一
五年	三〇二,〇五八	二八一,九七七
計	二,〇〇〇,三七五	二,〇五六,八六五

原料に就て言へば鐵鑛は朝鮮にては黃海道殷栗及び殷栗の二鑛山を明治四十二年に當時の朝鮮農工商部より移管して本所の所有となし其鑛區は二百八十三萬坪餘あつて採掘は年額約十四萬噸に達するのである內地に於ては越後の赤谷栗ヶ嶽（加茂）の二鑛區を有してはゐるが目下に於ては是は採掘してゐないのである又支那の大冶鐵鑛の採掘年額は約三十五萬噸であつて其大部分を內地及び

朝鮮產の鐵鑛

約八萬噸とを購入使用してゐるのである又製鐵所に用ふる石炭は骸炭原料及び普通燃料炭の二途に分かつのである骸炭原料たる石炭は燐及び硫黃の含有量が最も稀少であつて且つ粘結性に富み灰分の少ないものでなければならぬ骸炭は直接に製銑又は製鋼作業に使用するのであるから或る量以上の

燐又は硫黃を

含有する時は鋼の性質に著しき變化を與へ其用途を狹め又は全く用を爲さない樣になるのである

そこで本所では筑豐炭田中に此の有害物の含有量比較的稀少なる二瀨炭山を自營して原料炭を得之に粘結性に富む內外

數種の石炭を

混用して骸炭を製出しつゝある

菊の秋

今年は出來が惡い

鉢數も尠く淋しからう

芳芬香ばしく馨る菊の秋が近づいた京城と仁川は每年競爭の姿で相應に逸物を作つては互ひに誇りの氣焰を揚てゐた否寧ろ歷史から云ふなら仁川は曾て菊の本場であつたが年々京城の殷盛に壓倒せられて來た傾きがあるのである今年の

◎出來榮　ねは什麼であるか或天狗に聞いてみると今年は膨張り出來が惡いとの事である菊は何を云つても頗る手が入るもので少々の面倒では容易に美しい花は咲かぬ決して無性者の鉢に好い結果を望む等の事は出來ないが如何に又手入れを盡した處で天候の加減には如何とも策の施し樣がないこは尤もである今年は此の菊の爲めには

◎天候が　面白くなかつたので甚しく不作である最近に至つては殊に害蟲が發生して殆んど手を餘して居ると云ふ愛菊家もあるこれに罹つたら餘程面倒を見て驅除に努めなければ折角今日迄作々とした葉を造り乍ら開花期に至つて零にして終ふ發生の害蟲と云ふのは胡麻蟲の樣な小さい幾千となき小蟲の群集で之れを驅除するには葉煙草の莖を煎じそれに蚤取粉を混じて溶液を作り適宜に撒布すること一番

◎効能が　あるらしい但し素人が一度に驅除する目的で多量に使用する樣な事があると漏つてフイにするから注意の必要があるこんな工合で色々の障礙があり今年は思はしい出來榮ねが無いから逸物は容易に得られまいとの事である殊に鉢數も各人に減つてる爲餘り多くを作つて居る人が尠い或は仁川では出來まいと云ふから例年に見る如く鉢數を揃へて逸品を集むる等の品評會も出來まいと云はれて居る種類としては

◎一輪咲　も大分多いが近年は矢張山菊の鍵屋などが大分流行して來て鉢數も增した樣である山菊といへば本倉はどうしても小學校の小笠原氏で今年も出來が惡いとはいつて居るがそれでも充分に秀逸たるべき鉢が十幾つもあつて何れも美しい花の蕾が露を待つかの樣に膨らみかけて居る此の十月に入つたら漸々と其の瀟洒な花の姿と得難い香りとに接する事が出來よう

張三李四

◆三十九箇所で窃盜◆　京畿道安城の姿鐵福は四年此方各所にて盜み働くこと三十九箇所に及び賭博の資金に使ひ其附近の穴に隱したるを田林洞駐在所刑事に取押へらる

◆賴まれた千三百圓◆　京畿道廣州の銀熟高は安城の金東玉に賴まれて商銀の手形交店へ約千三百圓を持行く途中其金を拐帶して汶山へ飛びしも遂に捕へらる

◆女房が背けて自殺◆　雞二浦三菱山の人夫趙仁翮は永く思ひにて床に就けるより妻の李姓女は薄情にも逃去りしため同人は儚世を果敢なみて縊死を遂げたり

◆一賴の氣の小さき男◆　釜山本町五の二九金世（こ）は妻と喧嘩をなせしが妻の機嫌を損ぜしを非常に後悔し遂に氣が妙になつて縊死せりとは氣の小さい男也

◆從兄弟の家を壞す◆　全南高興郡古岩面花溪里の金光（こ）は從兄弟の金某が自分の妻と通ぜしと疑ひ父と共に金某の家へ暴れ込み家屋を破壞せしため拘引

◆兩銀行より千百圓◆　大邱市京町李相運方雇人金敬洛は農銀と大邱銀行より千百圓を主人の小切手にて騙取し奉天に逃れしも支那官憲の手に取押へられたり

牛乳　御用　岡野牧場　京城東四軒町　電話一〇六九番

台所　其の日

◆三倍豆腐◆　大根の搾り汁と水とを等分に合せこれに鹽少々を加へ味加減をなしよく煮立てゝこの中へ豆腐を四つに切つて入れます最初は鍋の底に沈んで動きませんが暫く煮て居りますと豆腐が動き出し上から浮き上るのを泣き掛けて出すのであります極めて淡白なものでありますが酒客の喜ぶ御料理でございます

◆梨の白和へ◆　梨の皮を剝き一口に食らるゝ位に切り之に豆腐を布巾に包みて水氣を去り摺りて砂糖鹽にて味をつけ前の梨を入れて和へて頂きます

肺病肋膜炎　責任賣藥

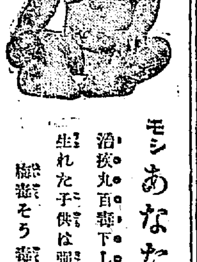
眞の肺病肋膜炎藥として其名を江湖に轟したる本願寺說敎所製出の天光は諸藥と併用差支なき至極安全の漢方的煎藥にして本劑は其効能を篤く信ずるよりも要は五日分の服藥實驗にあり是迄拾ケ年新聞及び郵便廣告を以て先五日分の無代施藥をなし効能確認者へ販賣申込す者ある方法なりしに全快證狀及び醫院の注文續出し共に持約販賣の盛況は世人の知る處なり然るに物價騰貴の今日施藥の製劑は甚困難なれば無代施藥を廢止し其代りとして無効返金可仕に付諸肺病肋膜炎患者は勿論如何に重症者も十日分購入の上先五日分試み若し快治の見込付かざる場合は何店よりの買入に拘らず殘藥五日分を發賣元へ御返送相成度候藥價は返金す　藥價十日分貳圓八拾錢（送費無料）醫院と町村長の證明附は從前通り三割引

製劑元　長崎小ケ倉本願寺說敎所　發賣元　長崎小ケ倉（振替福岡二四八二番）長崎　天光合名會社

産科婦人科　二宮醫院

京城壽町　電話一二〇一番

醫學士　二宮亮吉



商況

東京期米特電

休會

兵庫期米特電

二十六日後場 三十三圓丁度
二十七日未着

大阪株式特電

銘柄	拂込額	廿五日後場
宇治川水	五〇,〇〇	…
京阪電鐵	五〇,〇〇	…
東洋紡績	五〇,〇〇	[illegible]
合同紡績	二〇,〇〇	[illegible]
鐘淵紡績	五〇,〇〇	[illegible]
同上新株	四〇,〇〇	[illegible]
東洋汽船	五〇,〇〇	…
大阪商船	五〇,〇〇	[illegible]
日本郵船	五〇,〇〇	[illegible]
同上新株	五〇,〇〇	[illegible]
堂島米穀	五〇,〇〇	[illegible]
東京株式	三五,〇〇	[illegible]
大阪株式	二〇,〇〇	[illegible]

大阪三品特電

二十六日後場
九月限 四二四,七〇
十月限 …
十一月限 …
十二月限 …
一月限 …
二月限 四一五,〇〇

大阪期米特電

二十六日後場
五節 三十二圓五十八錢 十八錢
二十七日 未着

下關期米特電

立合中止

雜報

●三品高氣配

二十六日の大阪三品は前場當限四百二十五圓四十錢先十三圓六十錢後場當限二十四圓七十錢先限十五圓にて約八圓高を示し前日より約八圓高を示せり

三銘十四圓

市は午前午後共三銘十四圓高を示し前日より十四圓高を示せり

七十錢

市中は三十一一瀉四百三十圓唱へ再び過般の高値に頭合せしたり當さ益々氣强し

●正米更に昂騰

正米は引續き强硬にして本日の出米は神力精米三十一圓在來米三十圓五十錢の見當を以て行は更に三四十錢方引締まり最近の約二圓近く暴騰を告げ目先き更に一段の上進の模樣を示しつゝあるが今回の反騰原因は内地再度の暴風雨被害の影響が動機を爲したるものにして目下地方注文を擬ぎり原料一齊に買進まるゝに至り而かも釜山仁川方面の商略へ沿線地方の米は總て之等の方面に吸收せらるゝより地投在米は又漸次に減退の傾向なり

地に買付

ありて既に買付行はれしも可成込み共結果は仁川より當初注文は手當に入り仁川共他に移出口の影響が…

●牛肉更に昂騰

過般來鐵路輸送叶はざりし爲め生牛の内地移出は此間一時中絶し居めに價格持合ひの裡に多少不昧の傾きありしが從つて肉類又亦ざ相場の變動なかりしと雖も輸送復舊と共に生牛移出再び開始せらるゝに至り市況又一變直りを呈し一昨市日の如き一頭約五圓高の見當にて賣買行はれ其結果之が肉價に更に一斤二錢の高値をなさしむれど需要は依然不活潑なる今夏の頃に比較しては増加し昨今にては一日平均四五十頭の屠殺を見るに至れり市中小賣值は上至りの希望なきにあらざるも現在以上の高値となる時は需要一層減ずべき恐れもあり同業者にては極力現狀の維持に努めつゝあり

下關相場

▲朝鮮米も好況 共に三百五十叺の廻著に過ぎざるのみならず現物の如き目下品拂底ことも云ふべき折柄内地期米の益々好況なると氣構へ且つ地方筋より相當に注文も入り來る杯自然買人側の意想强きに依り人氣頗る好況を極めつゝあるが成行きは左の通りにて引續き相當に取組行はれつゝあり

▲小豆は小强し 本品は其後出廻り皆無なるのみならず過日來正米高と共に産地の如き漸次減じ居るも引續き相當に在荷薄少なかり山廻りあるも今後は在荷移なからぬのみならず昨今入津ある分は現も角倉入れ物の如きは稍鈍り急ぎ氣味にありて自然市況氣鈍き方なり而して當州新物二百俵入著したるは壁州新物六百俵羅州產三百二十三叺宜川物四百叺等なり

▲大豆は氣鈍し 本品は既報の如き事情の下に共に別段變りなく手持筋の氣樂り居る爲め昨今賣れ行き捗々しからぬにも拘らず市況小强し

▲朝鮮一等白米 四十一圓
▲同來月上旬物 四十圓三十五錢
▲釜山新大豆 十九圓七十錢
▲同 十九圓八十錢
▲元山大豆 十九圓七十錢
▲宜川大豆 十八圓七十錢
▲同 十八圓五十錢
▲フリツポ大豆 十九圓五十錢
▲肥料の現況 魚肥は出廻り途切れざるも依然共他多からぬのみならず需要も依然不活潑の人氣安からぬと肝腎の米價の如き益々好況を演じ居る杯合手持筋の窮屈さ設きに依り市況底强然れども目下需用時季にあらざる今後の成行き如何を案じ此際氣乘り買の現はれざる爲め別段市況活氣を呈するに至らず▲粕は朝鮮物二百叺の輸入に過ぎざるも別段買進む相人の現はれざる爲め人氣狂はさりし值は滿州粕八十錢

京城日丸市場

（相場略）

生魚市場

四百二十叺 四圓三十五錢
（他略）

仁川正米

▲正米は依然高人氣にて三等合格品三十二、三圓地搗玄米三十一圓内内にて弗々商談行はれ前日來暴落したる丈今回の内地に於ける暴風雨報に最近の高値に復したりとの事

▲波瀾大なり 前昨場反落したるも大阪の反撥に形勢忽ち一變前後場は二十六圓五十錢と暴騰し今前場は大阪昨止め安なるも跡高氣配を受けて六圓四十四錢より五十一錢と上伸

三巴仲買店

仁川米豆取引所仲買人
仁川海岸町三丁目
振替口座京城四〇二番
電話二一、一二二、一四一番

▲五十一錢と沸騰 せしが折柄大阪安の喧に賣物現はれ忽ち十五錢と暴落したるが大阪安は昨日の雷鳴が延著したる者なりと形勢一變再び反撥したるを機會とし結局四十三錢と大波瀾を惹起し要するに買方は朝鮮に於ける疑際に在る直頭の大豐作と高値に來る者にて賣方は前の大豐作と高値にて兩者の腰の入稍深甚さなり來りたる後の米界大に注目を要する者あらん

下關相場

（倉 米豆取引所仲買人 … 電話一六〇四番 廣告）

冬帽子好調

▲冬帽子好調 は昨今既に取引七八分方を了りたるが本年は原毛の拂底生產費高等にて和製中折約二割高に當り舶來品は本國高運賃關係及び輸入難等にて一段の高値を告げ之が製品さしては三割以上の高値を示せるに拘はらず地場地方共に注文多く意外に荷動きあり之に上品の賣行き一層良好にて問屋の持品も頗る順調に消化せられつゝあり

●穀粉類引締む

穀粉類は原料高に連れ製造元の値上げを重ねし結果當地卸小賣共に次第に騰貴し既に相當の高値に達せる今日迄は順次前約の入荷ありし爲め夫れ丈け當に探算値に比し割安に賣廻したりしも輸送上の蹉跌次製造元は倚頗いて强硬の態度なるより昨今割安品の入荷一掃したるより採算上適に米粉淨粉其他を通じ一貫目に付十錢方の引締まれり

田中金兵衛商店

期米賣買御委託
仁川米豆取引所仲買人
仁川海岸町三丁目
電話長一五二八番

●白米眼先高

は別項の如く過日引締まりて安値より約二圓方の跳返しを見るに至れるが白米は過般來原料に比して下げ後れて未だ格別の影響なし引續き市中卸値つおりし爲め鮮米三十八圓と近し且つ地方注文の入込み來れる折柄眼先多少の引上げを見るべし

釜山穀物市場 廿六日

▲玄米赤昂騰 昨市場は氣配前る好況なりしが引續き今朝市場も當初より活氣を帶び居りしが精米筋の買進み旺盛なるに大口は内に移出筋の買進み旺盛なるに見込みは頗る活況を呈し相場は一比し最初三四十錢高を以て取引開始されたるが商内の進行と共に氣配は益々好况を呈し相場はざりしき高合さなり最後に一圓八九十錢より高に依りては一圓高を示す至り市場至つて活況を來し午前中六千四百叺の商内行はれ眼先き荷は内地よりの買注文多く昂騰の商勢を示し居れり

▲新玄米 今朝市場に瀬川新玄米一叺の賣物現はれ三十四圓五十錢を以て商内出來せり

南大門廻穀

仁川玄米二二〇叺水原白米一七二叺平壤裸麥六〇叺金泉碎米三〇叺平壤裸麥五三叺宜川大麥二九叺嘛鼓新麥七〇叺鳥致院粳四四〇叺

叭繩莚

穀物鑛石海產物用叭及荷造用莚各種
大田本町二丁目
箕浦商店
長電話五二番

京城正米市場

仁川よりの買付及び地方白米の注文入込み地場精米筋の原料買氣旺盛にて氣配は更に一段昂進し神力極上物三十一圓見當にて以下可成り多數の出來あり
玄米二千六百九十六叺最三十なる一圓最低二十八圓
（他略）

仁川期米

▲二十七日前場

▲第一節 大阪止め三十二圓五十八錢兵庫三十三圓丁度今前寄來著にて當地二十六圓四十四錢さ五錢高に寄付たる後買物多く三十五錢と押したるが押目は又買物多く四十三錢と返し

大五仲買店

仁川米豆取引所仲買人
店主 猪飼政太郎
電話長三〇九番
自宅長六〇一二番

▲第二節 先四十三錢より買物多く五十一錢と上伸したるが賣物漸く多く四十八錢と押して引

▲第三節 先四十八錢より大阪安喧傳に賣物多く大激戰に急轉二十錢と暴落して引

▲第四節 先十五錢より買物多く忽ち四十五錢と反撥したるが高値は又賣物現はれ三十三錢と押し七錢と返し六錢と大混戰を演じて引

▲第五節 大阪安喧傳に開通かなりさの事にて先五十錢と上放れせしが賣物多く三十九錢と押したるも押目は又買物多く四十四錢と返し三錢と大混戰を演出し結局保合の前場引

▲二十七日 前場先限の二十六圓四十四錢二錢一錢四十錢三十九錢五十錢七錢二錢一錢四十二錢一錢三錢二錢一錢十八錢九錢五十錢六錢五十錢四十八錢四十八錢九錢五十二錢四十七錢三十八錢十九錢八錢四十錢四十一錢四十錢四十九錢五十錢六錢七錢四十錢三十九錢八錢七錢六錢五錢

ナ仲買店

仁川米豆取引所仲買人
仁川海岸町三丁目
電話長九〇五番
四四番八三番

市場雜觀

▲昨後場は大阪前止め三十二圓五十一錢安を寄付さ高寄來著にて當地先二十六圓四十錢さ三十錢六上放れて寄付きたるも賣物多く忽ち三十十錢と押したるが押目は又買物現はれ三十八錢と返し四錢さ押十八錢と返し四錢さ押し大激戰を演じて一節を送つた二節三十六錢より賣物多く二十九錢三錢四錢一錢二十九錢二錢二十九錢と返し八錢と押し五錢に押し九錢と返し大阪後寄六十九節二十九錢より賣物多く二錢三十三錢の入電に買物現はれ五十三錢と暴騰したるが高値は利喰に新規に九錢と大激戰裡に放會▲大阪の反撥を受けて大上放れに寄付きたるも値頃觀の賣に利喰に賣物多く不安に陷りたるも大阪の更に後場昂騰を受けて再び騰沸したるも依然賣物多く大阪の强硬に比し伸惱みの場面にて終に二錢の鞘は益擴大し六圓三十錢以上に至つた

▲大阪は昨止め安さも引跡九錢兵庫三十三圓丁度の入電に接したり

仁川米豆取引所

廿七日の十一月限

前場	
寄付	二十六圓四十四錢
止メ	二十六圓四十三錢
高値	二十六圓五十一錢
安値	二十六圓十五錢
出來高	一萬七千四百五十石

平均値段	
一節	二十六圓四十錢
二節	二十六圓四十八錢
三節	二十六圓二十五錢
四節	二十六圓三十二錢
五節	二十六圓四十錢

大仲買店

仁川米豆取引所仲買人
仁川海岸町三丁目
電話長四〇四番二〇

●北海色豆市況

▲一圓 米國は前記の如く金時またかわらずの商狀なれば普れと買はん手口も現はれず時偶必需筋が端物行くに過ぎず即ち本朝甲格六十一俵か五圓卅錢と出來し金時は端物に取組みあれど別段問題視する程ならず旁々本品如き成行賣物も無ければ相手はらず無味平凡の商狀なり▲ビルマ昨今弗々買現きあるにして大体前記は强いて買はんとも見せず大盤問題視する昂騰にても之からざれば必需の外は他は何れも時期待ち模樣へ市況冴えざりる事なれば手持し小高さしてか相當け下げて賣ら居ればそ當面安値入手は困難さす相場とせば卅錢は公平な値ならん四等五圓卅錢大福 目下の問題外ですれば可き所材料らくば別段之れさして賣手方面くれ現物先共概して賣手唱ねば判然たる能はず

白米標準値

三十九圓丁度錢

白米小賣値

一等白米 三十九錢五厘
二等白米 三十九錢

仲買店

仁川米豆取引所仲買人
仁川海岸町三丁目
電話長一四〇番

仁川米豆取引所仲買人 仲買店

電話長一五八番 電話七二〇番

▲意外の大波瀾 二十六日後場は先二十六圓四十七錢さ五錢高に寄付きたるも賣物多く三十五錢と押したるが押目は又買物多く更に五十一錢さ上伸せしが高値は賣物現はれ三十二錢と返し二十一錢と押したるが大阪安の喧傳に四節に十五錢と押しさ五錢の下落との事に買物現はれ忽ち四十五錢と反撥したるも戻りは又賣物多く三十三錢と押し五回更に五十一錢と上伸し三十八錢と押し五大更に五十一錢と上伸し三十三錢と返し四十三錢さ散會したり▲前にも記せし如く大阪の高氣配を受けて堅硬な持續し居りたるが電報の延著に意外の大波瀾を惹起し爲めに人氣頗ぶる動揺を來し恰も内地の變動激烈なるの時に際し角相場の終つた兎に人氣頗ぶる動揺なる者を發致せる所以にて延著に至つては延著を自ら起り此等の電報の遲延は問題に外ならず▲然るに市場の慣例として相場の變動甚しき丈種々なる流言蜚語行はれ居るも取引留めたる事なし内地に於ける

今回の暴風雨被害

多しさの事折角米高の好況作も調整に居りたるに天公の無情は再度の暴風雨襲來さなり大豐作に幾分の減收を見るに至つたは實に遺憾の極みであるが然し再度の風雨害に依り大正米界は

齋藤榮之助

仁川米豆取引所仲買人
仁川海岸町
電話長一三九番

約六圓切の安値より

▲前場の當限… 騰を演出し居れり今後の騰貴を知るの能はざるもいさゝか吝嗇を嫌ふもの多き… 此の如きは則一割以上の暴騰を演出し居れり今後の騰貴を知るの能はざるも…今回の風水害ありたるも幸に朝鮮にて何等の被害もなく暴ろ秋日和は頗ぶる順過し上にも豐作を確實ならしむるものあり▲内地收の上に幾何の減收を見るに至るや未だ知る能はざるも其の鮮米の需要は昨年の如き深甚なるものとも思はれず爾く被害の輕微ならん事ないのある

毛谷村六助 第十八席

卅六番角力

桃川桂玉口演
浪上義三郎速記

水鳥典膳が門弟の柏木市藏を呼んで 典『其方此の清十郎と一本立合なさい、さア清十郎支度を爲なさい』清『それでは一本お立合を願ひませう』と早速稽古着を被け後鉢卷木劍を取つて其れへ出ました、柏木市藏も腕自慢の奴で、ヤツと上段に振冠つた、此方は青眼に構へ暫くの間呼吸を計つて居りましたが、市藏『エイ』と一聲打下したやつを、ハツと體を交して受け止めました、二三合打合ますと忽ち清十郎が横に拂つた木劍にて柏木の脇腹を强かに打ちました、ウンと云つて其處へ倒れたが、聲を揃へてませんから如何と肩口へ又一本打込みました、軍『マ、參つた』餘程苦しかつたものと見えて眼を白黑して、

に斯様に續けて打負けては此方の道場の名折れに相成ると思つて、二尺七八寸もあらうといふ木劍を携へてズツと其處へ出ましたが、『却々お前の腕前は確かなものだ、さア俺が一本立合ふ』清『先生何うかお相手をいたせるものではございません、それに私は餘程疲れて居ります』典『イヤ左様な事はない、僅五本か六本の立合に疲れるといふことがあるか、さア來なさい』と今は詮方なく清十郎も少し腹の中で憤心が出ましたが、弟子の腕前で大體判つた、此先生を一つ打込んで遣つたら愈々俺の師匠の名前が出來ると成る程流石は師匠の名前が

へ來るといふものか、それ〳〵梅まつたものでございます、それ〳〵喉へ打ち込むなどといふのは、是を道具外れと申しまして醜い爲方であります、打ち様が惡いと死んでしまひます、清十郎は强か打たれてウーンと其の場へ倒れた、何分にも聲を出すことが出來ません、一生懸命に清『參つた』と木劍を其處へ投捨ました、

て居ります」スルと山上五平太と云ふ者が飛出して 五『却々米屋の伜は遣へる、拙者が一本行かう』と木劍を持つて對ひました、是亦五六本にして打据ゑられた、其の跡へ出たのは井出牛三郎といふ者、是も亦七八本渡り合つたが强かに肩先を打たれまして引き退る、入れ代つて小泉藤兵衞、其の跡へは木村專助是等は皆高弟の部であり ますが清十郎の腕前には敵ひません、忽ちの間に打据ゑられてしまつた、乃で師範代の松本勘藏は此の態を見て、此の小伜生意氣な眞似をする奴だ、イデ打据ゑてくれやうと思ひ 勘『拙者が一本相手をいたさう』と云つて木劍を取つて出ました、此は流石に代稽古をするだけあつて凡そ二十五六本を打合ましたが、小手を一本挑はれて持つて居た木劍を取落しました、先程から此の樣子を見て居りました水鳥典膳大幾な奴が道場へ飛込んで來た、高の知れたる米屋の伜

だと云ふので定めし門弟も追々出來るであらうと思ひ、清『それでは先生洵に未熟ではございますが、何うぞお手柔かに願ひます』典『さア充分に打込んで來なさい』と云ひながら、ヤツと上段に振冠りました、流石は一軒の道場を開いて東軍流を指南する水鳥典膳少しも隙はございません、清十郎は中段に構へましてエイヤツと暫時呼吸を計つて居りましたが、典膳が打下して參つた心得たりと木劍を以てガツキリ受け止め、凡そ五六本打合つて居りました、典膳は頭上からビシーリ打下すを見せかけて途中で變化を爲し、ポンと横に拂つた一刀、實に其の早きこと目にも遁らぬばかり、清十郎は恰度横のあごの下から咽喉元へ打込まれました、假へ道具は無いにしろ咽喉元などへ木劍を向けるといふのは法に無い事でございまして、まア大抵は肩を打つとか頭上を打つとか小手を打つか胴

◎安東縣近事

▲滿鐵柔道試合 滿鐵社員を以て組織せられたる柔道部は柔道三段師範藤千春氏の來安を機とし二十四日午後六時より山下町道場に於て勇壯なる數十番の試合をなしたり

▲蔬菜の品評會 安東縣滿鐵演武場に於て二十四日より二日間第五回滿菜品評會を開催中なるが午前九時より午後四時迄一般の縱覽に供し居れり因に二十五日一等賞より三等賞迄夫々賞品を授與せらるべし

▲戰捷の祈念祭 二十六日午後二時より六番通り西… 寺に於て各…

▲安東の屠畜數 八月中安東居留地に於いて屠殺したるは牛三百二十一頭、犢十二頭、豚七百十八頭、豚一千百十一頭合計二千二百十二頭檢查收入三千三十四圓二十錢なり

▲學校費は膨脹 安東縣學務委員が八年度經常費は過日學務委員會を開き略ぼ決定し終りたる由なるが小學校の大正八年度經常費は學級數の增加物價騰貴の結果經費に大膨脹を見るなるが安東縣は多分十月中旬頃となるべしと

▲滿鐵の檢閲期 滿鐵の定例檢閲は九月下旬北方より漸次南下執行の筈なるが安東縣は多分十月中旬頃となるべしと

人參主要

京城本町壹丁目 電話一四八〇番 一八七〇番
津村兄弟商會

▲安東の居留數 八月中安東居留地に…

▲…聯合戰捷祈念祭を舉行する由なれば各信者は奮つて參拜ありたしと

曆

九月二十九日 九星
舊八月廿五日 巳卯
本命九紫南破友引

▲九紫 不要なる事に目を出し悔の事あり 西方は吉南方は病難▲一白 あぺこべに來る事有日新は吉和事は手控 持事吉女子は心を美にもたるべし▲二黑 算術よき日轉居開業入學名利求職婚姻舉式吉▲三碧 高尚優美の日轉居入學女は子の淑徳を現し立身を爲す▲四綠 吉運の日轉居開業入學求職盛壯也▲五黃 好運の日轉居開業入學名利求職婚姻舉式吉▲六白 怪しき命件婚姻試驗を受る等吉由▲七赤 氣に添はぬ事有日新は手控え吉せらるべし▲八白 大體 有日時に開業家は名も弘命件求職探鑛婚姻定期取引吉

老衰と奮闘した吾輩の經驗

諸君は余の風貌を見て、余が如何ばかり愉快に活動しつつあるかを推知するに足るであらう。然り、余は頗る壯健である。當年八十六歲の老體でありながら。體重は二十貫を超え、血色は青春の如く鮮かに、頭腦は明晰なる活動を誇りとしてゐる。余が斯の如く老体であり乍ら斯の如く壯健にして愉快なる活動を爲すを得るは何が故であらう。それは余が青年時代より藥用人參の服用を怠らなかつたが爲めに外ならぬ。

學者は科學的に人參の効果を證明す

藥用朝鮮人參は古來不老長壽の靈藥として重用されてゐたのであるが、明治維新後洋醫學崇拜の勢が流行的に高潮し、漢藥を口にする者は舊思想者として冷笑さるゝ樣になつたので、効能眞に優れたる藥用人參も、之等流行的思想に誤られて一時世上より忘らるゝに至つたのである。然るに最近米人ラフイネスク氏を嚆矢とし多くの學者の科學的研究が行はるゝに至つて之等學者によつて其効果を科學的に立證さるゝ樣になつたので、近來再び人參需用の聲が喧しくなつたのである。

不良人參と純良人參の撰擇を誤る勿れ

各學者の報告に依れば、各地に產する人參の內、朝鮮開城產のものが最も優れて居り、之の右に出づるものはないと言はれるが、開城產人參の純良なるは頗る高價であつて、昔つて李完用伯の如きは一本三千圓を投じて購入したと言ふ程であるから、市場多くの人參製劑は窃かに他地產の不良人參を混入しつゝある者も尠くない。星製藥株式會社の發賣に係るホシ人參製劑は朝鮮總督府専賣局の三宅博士が本場開城產の逸品中より更に優良なるもののみを撰擇し、絕對に他地產のものを混入せずして化學的に精製したものであるから、數ある人參製劑中最も優秀卓越せるものである。而してホシ人參製劑は精力を盛んにし、腦力を强め、血行を良し、

神經衰弱、ヒステリー、精力減退、貧血、肺病、目暈、リウマチス、子宮病、神經痛、營養不良、老衰、陰萎、腎臟炎、

等に用ゐて最も卓拔なる効能を有す。殊に血液の循環をよくするが故に常に血液を滴淨に、色白く生々とした顏色となし、記臆力を强め体量を增加する。

種類	
ホシ人參丸	五十錢 一圓 二圓
ホシ人參錠	五十錢 一圓
ホシ人參末	五十錢 一圓 三圓 五圓
ホシ人參エキス（流動）	五十錢 一圓 三圓 五圓
ホシ人參葡萄酒（規那）	一圓五十錢
ホシ朝鮮人參（生）	一圓 二圓 五圓

効能は何れも同じ

東京京橋南傳馬町
星製藥株式會社
電話京橋一七八五
振替東京二〇五二二

ホシ人參製劑

共同汽船出帆

阿波共同汽船株式會社
大連直行（關東都督府命令船）
共同丸 九月三十日後入港 十月一日正午出帆 仁川
朝鮮鐵道主要驛にて荷客聯絡運輸取扱
大連にて滿島行定期船接續荷客共通し輸送
阿波共同汽船株式會社
仁川代理店 本町四丁目 野口商會 電話二十三番
元山代理店 … 田口商會
京城取次店 南大門 河村運送店

大阪商船出帆

（仁川出帆）
群山大阪行 安東丸 十月二日 正午出
木浦大阪行 信濃川丸 九月廿九日 正午出
（元山出帆）
清津行 宮島丸 十月四日 後十二時
釜山、門司、宇品、神戶、大阪行 安平丸 十月三日 後九時出
（大連出帆）
上海、芝罘、打狗行 湖北丸 十月十七日 前六時出
北陸丸 九月廿八日 後六時出
內地各港出帆主要航路
歐洲行 一年四回 北米行 毎月二回
南米行 一年四回 孟買行 毎月一回
濠洲行 毎月一回 南洋行 毎月一回

御注意
●外國航路乘船ノ節ハ五分以下ノ端數ヲ以テ旅客●鮮滿航路船客ノ切符ヲ特別往復切符船客ノ船積ヲ賣出ス一等船客ノ旅客ノ發賣ヲ取扱フ
大阪商船株式會社
京城支店 南大門通 電話二二二
仁川支店 …
（他略）

日本郵船出帆

大連、天津行
甲斐丸 十月二日 正午出帆
酒田丸 九月廿七日 正午出帆
高砂丸 九月廿七日 午出帆
仁川海岸町 堀 同 漕 部 電話十番

朝鮮郵船出帆

天候其他ノ都合ニ依リ出帆日時變更スル場合有之
○浦鹽行 大阪商船出元山城津經由
平安丸 十月二日 元山發
平壤丸 九月 日 元山發
●雄基行 城津經由
雄基丸 十月 元山發
×山陽丸 十月 日
●元山雄基線
穩城丸 九月廿九日 元山發
●大阪行 神戶經由
越後丸 十月一日 元山發
●金剛山遊覽便
穩城丸 九月廿七日 元山發
●濟州島行
金海丸 每日 釜山發
●釜山浦項線
西廻 公州丸 九月 日 木浦發
●濟州島行
昌平丸 九月 日 釜山發
●釜山麗水線
海州丸 每日 釜山發
●木浦麗水線
順天丸 月 日 木浦發
●多島海行
三浦丸 九月 日 木浦發
●木浦行
慶寶丸 九月三十日 仁川發
●海州行
鎮江丸 每日一回 仁川發
●青島行
江原丸 九月廿六日 仁川發
朝鮮郵船株式會社
本社 京城南大門通 電話二一九五
釜山支店 元山支店 釜山出張所 … 仁川代理店 木浦代理店 京城荷客取扱店 … 京城南大門驛前 松原運送店 電話二〇七番
其他各寄港地に荷客取扱店あり

京城日報　第五版

[illegible]千四百五十萬圓の激增を示せり[illegible]千三百三十二萬八千圓[illegible]內地に於ける一般通信の激增及び[illegible]の途の講ぜられざる限り[illegible]の不便を除去するに至る可[illegible]
[illegible]次第破壞するといふ八ツ當りである。故に一面より見れば自然に發生した社會主義であるといひ得る(東京支局)

定價　廣告料　發行兼編輯人　奧田迪[illegible]　印刷人　小川三之介　發行所　京城太平通一丁目　合資會社京城日報社　電話[illegible]

京城日報
朝鮮同胞に告ぐ(四)
日本民族は特に神道に就き　忠君愛國

日本國民は國家的觀念に强く、忠君愛國の赤誠に充てりとは、吾人の常に自負する所なるが、是決して自畫自賛にあらず、試みに外人の言を聞け。佛人ルブオンはいふ『日本人の愛國心は實に稱賛すべきものにして、こは皇室に對する忠義の觀念と密接の關係あり。日本の皇室は亦神道と關係して、各人各家が皇室の祖先を崇敬して之を日本全體の太祖とすると同時に、天皇を日本といふ大家族の家長父として、家族制の中心と視るを以て、愛國心の著しき發達を爲せる所以にして、此の如き完全にして統一せる國家的觀念は諸外國に見るを得ず。勿論佛獨諸國に於いても、此の如き忠君愛國の精神が存在せしに相違なきも、多くは其の一部の封建的君主に對する忠義心にして、從つて日本の如く統一したるものにあらざりき。此の日本に於ける愛國心の發達は、日本文明の中心にして、之に他の分子が錯綜融和したるものなり』と。日本人にして此の如き言を爲すは、何等珍とするに足らざるも、風俗習慣を殊にし建國の歴史全く其の性質を異にせる他邦人にして、ここに看透したるは、深く我が國情を研究したる結果ならずんばあらず。

吾人は更に祖先崇祀と忠君愛國との關係を明かにするがために、文學博士芳賀矢一著『戰爭と國民性』の一節を引用せんと欲す。曰『敬神といふことを宗教的に見るは誤れり。敬神は即ち祖先に對する崇敬にして、所詮は皇室に對する尊崇心の表彰に外ならず。日本の神國たることは、今日朝廷の祭祀に於ても明瞭なることにして、往古の祭政一致は、今猶儼然として宮中に行はれ、百官臣僚其式典に參列す(中略)祖先崇敬の大本の上に立ち、祭祀と國家とは離るべからざる關係の存する以上、國民が宗教信仰の如何に拘らず、神祇を崇敬することは、其義務たらざるべからず。朝廷を尊奉する我が國民が、朝廷の太祖たる皇大神宮を尊奉せざる理由なく、此の尊奉心は即ち己が氏神を尊奉する所以、又小なる一家祖先の神靈を貴ぶ所以たるべし。而して是の精神が家族的團結國民的團結の基礎となるものにして、汎濫として宇宙の神を信仰することは相違せり。氏族關係より成立せる武人時代に於いて各其の氏族を更に擴大し、國家と稱する大家族となれば、其祖神たる天照皇大神を尊奉するは當然の事なり。宣戰の詔勅一たび煥發すれば、そは大元帥陛下の叡慮のみならず。祖宗の御意志の發表せられたるものと見て、國民は肅然として皆其の國家的命令を遵奉す。小なる家々の神靈も亦『我等が蠢したる如く、蠢しまつれ』と我等に命ぜり(中略)武家爭奪時代に於いては、武人は皆其氏神に祈りて氏族のために活動したるものなるが、王政復古の後は國民は其の氏神の命を受け更に大なる國家のために活動することゝなれり。敬神の風は時代を通じて變ぜず。大小の神祇は、皆國家的關係を離れたまはず之を小にしては家々の神、之を大にしては國家の祀神、慕はしき祖先の神に護られ、外敵に向ふといふことは、今日の文明國に於て唯我が日本國民のみなり。東郷大將が日本海々戰の大捷を奏上して『歴代神靈の加護に依るもの』と信仰するの外なく』といはれたるも、其の精神は同一なり。弘安の役に吹き起りたる大風を神風といへるも、亦我が敬神の念より發したる語にして、敬神は即ち忠君にして又愛國なりと説き得て簡明。しかも其要を得たりといふべし。

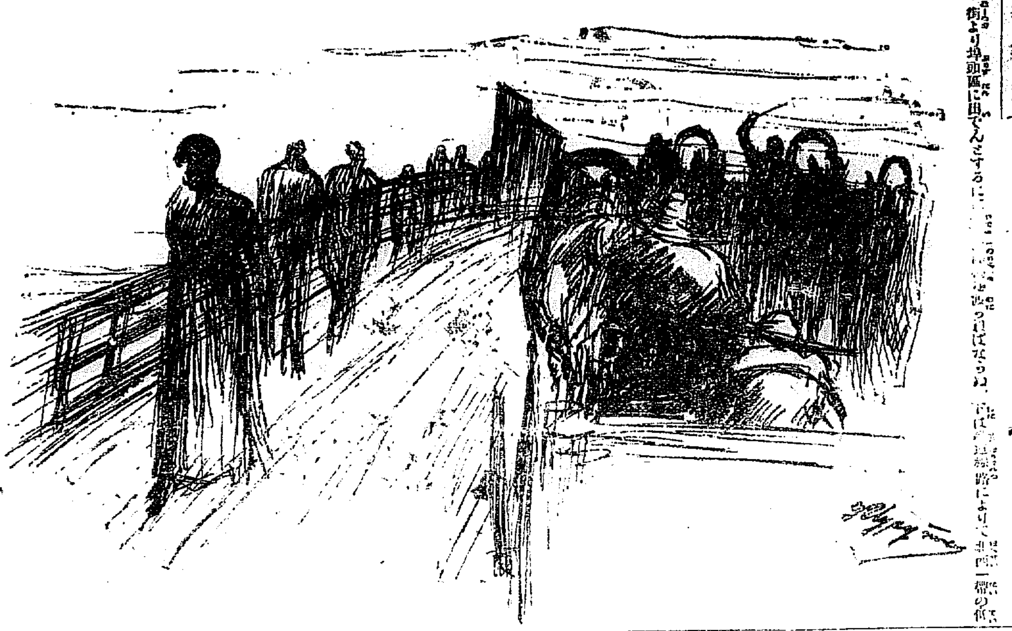
以上の諸説は、吾人が前章に於いて陳べたる、日本流の祖先崇祀を闡明するものにして、同じく祖先を崇祀するも、並に懸隔せる結果を生ずることと、深く注意するを要す。支那に於いては革命爭奪相尋ぎ、國土常に安からずと雖も、其裏面には個人主義の强盛なる發達あり、從つて個人利益を目的とする商業の如きは、吾人が及ぶべからざる域に進みつゝありと雖ども、一たび國家的方面を觀察するときは、蕪雜亂離の極に陷り、全く列邦競爭に伍するの力なし。之も、祖先崇祀の弊といふは當らざるも、本來の思想が個々分立に在りて歸一する所なく、愛國精神の泉源を塗ふべきものなきを以てのみ。朝鮮の支那に範式せるは、其の當時に在りて洵にしかあらざるべからず、或は少くとも餘儀なき事情ありしならんも、今や日鮮一家の大理想現實の域に進みつゝある以上は、祖先崇祀を忠君愛國の根源とし、支那流の弊害を一洗する所なかるべけんや。

時局と國民思想(十七)
各々自ら戒めよ(一)
貴族院議員　江木千之氏談

今回の米騷動に就て最初富山の漁夫の女房達が騷ぎ出した頃は、既にもう全國一般の下級民は、總て物價の騰貴、殊に米價の暴騰の爲に困り切つてゐたことは勿論である。然し之より前米價が一升三十六七錢位に騰つた事があるが、政府は之を高價なりとして暴利取締令なるものを布告したが、下級民に於いては其の時高い〳〵と云ひ乍ら實際は未だ〳〵窮く程の程度には達してゐなかつたのである。ところが漸次騰貴して四十錢、四十二三錢になると下級民も漸く驚愕の聲を發するやうになつた。而も此の暴騰も一寸騰つては一ヶ月位も留まつてゐて又上るといふ風であるならば値段に慣れるといふこともあるが、今回の騰貴に至つては、朝に三錢夕べに二錢といふ風に間斷なく騰貴して行つたが爲めに、途に前途が茫然として來て全く彼等下級民は其の生存の不安を感ずるに至つたのである。即ち彼等下級民には、此の物價の騰貴殊に米價暴動なるもの、起つた理由が、或は通貨膨脹其他の經濟上の理由からであるといふことを辨へることが出來ず、唯だ徒らに奸商等が暴利を貪る結果であると速斷したのである。又延いては之等奸商の暴利を貪るをも見逃してゐる以上は政府も之等奸商と聯絡を執つて互ひに其の利を占むるものがあるのだといふ風に政府をも怨むに至つたのである。而して又終に一升五十錢にもなると、日雇錢一圓で働く勞働者は、一日一升飯を喰ふのが普通である。すると一圓の日雇錢を取得する勞働者は已自身にて一圓の中の五十錢は要することになる。後の五十錢にて女房も子供も養はなければならぬ。食物も又之を炊く薪炭をも要することすれば、到底此の如き勞働者は生活といふことが出來ないことになる。炎天に力一杯働いて生活することの出來ないこととなつた彼等は其の心中困苦の極に達してゐるもの、あるを察するに難くは無い。其れも職務に懶けて生活が保たれぬといふならば諦めることも出來よう。然し稼うでなく炎天に一生懸命働いて食ふ丈のことが出來ないとなれば、失望の起ることは勿論、同時に自暴自棄といふ心理狀態に立ち至ることは有り勝なることである。結果市街のものならば米屋を破壞に行くことも出來ようが、地方村落に於いては左樣なことをする譯にも行かぬ。或荷車挽の如きは進退谷まつて、井戸に身を投じたものもあつた。で、彼の市街地に於けるものは米屋を破すとか又は財産家を襲ふとかしたが、其の暴動を爲すに至つた理由は强ち社會主義者などが、煽動したが爲めでは無い。場所に於ては左樣なこともあつたであらうが大體に於ては然うではない。所謂彼等の言を藉りていへば、手當り

哈爾賓畫觀(十五)
陸橋　田吾郎

停車場或は新市街より埠頭區に出でんとするには[illegible]此の陸橋を渡らなければならぬ。[illegible]線路によりて東西[illegible]地は松花江を境界として雜然たる市街を望む。馬車人車、行人兵匪を上げて橋上は常に壯觀を現してゐる。此の橋を渡る[illegible]んとする時初見の者はハルビンの殺伐の氣に劫かされるであらう。



邂逅
佐々木峯雪
四　虐待(四)

『何だと、僕が買つて來た……』と不審の目を睜つて『はゝア分かつた、わりや乃公に内證で鮭を[illegible]ら庄坊だらう、[illegible]だらう、いくら隱したつてそれに違ひ無い』『いゝえ叔父さん、そんな事……』と目を瞬いて『僕京城の叔父さんに買つて來たんです』『鮭の好い事を吐せ、口は重寶だ、なんとでも云へらア、さア此方へ出せ此方へ』『はい、これです』と竹の皮包みを其處へ叩頭に置いた、惣兵衛は手早く手に取り上げた。『そんならもう鮭は要らない、其代りに此の切目でも買つて來い』

[illegible]出た、その聲は餘程慄うて居た。『燐寸は庄吉が茂作に買つて來るんだぞ、もし一つでも買やがつたら承知罷無いぞ』惣兵衛の口汚く罵る聲が暗い濕つた部屋を漏れて、狹い路次一杯に響いた。

『あゝ困つた、叔父さんは燐寸は隣の家で買つて來い、買つて來たら承知罷無いとおふけれど、隣の家だつて誰が貸るもんか、それも叔父さんが日頃から、隣は隣らしう交際でりや、そりやこんな時に賴んだら燐寸の一つや二つ位はくれやうけれど、叔父さんのやうに朝から晩迄酒ばつかり飲んで、醉つ拂つた上句溝へ陷つて近所の方に迷惑を掛たり、詰まらんことに口論つたりして、蜂や百足のやうに皆さんに嫌はれて居るんだもの、どうして燐寸一つだつてくれるもんか、燐寸は愚か藁筋だつてくれやしない、どうあつても隣で買へと云ふんだな、僕困つたな、あゝ困つた、何うしやうかしらア……』庄吉は太い吐息をした。

『また燐寸買はうかしら』庄吉は斯う思つて二足三足進んだが、惣兵衛の恐い顏、猿のやうな節くれ立つた腕、蠑螈のやうな香、青筋の這ふた額等がそれからそれへ、涙に光る目の前へ顯はれるので

『いや〳〵燐寸買つたら叱るだらう、叱るばかりなら無いが、あの鬪い拳で打つんだもの、何うしてくれるか分らない、隣の家へ行つて賴んで見やう』斯う思ひ直して、又二足三足運んだ。

『けど叔父さんは嫌はれて居るんだもの、誰が燐寸呉れるもんか』庄吉の頭には又してもこんな思ひが浮んだ。

『どう爲やう〳〵、あゝ困つた、僕どう爲たら好いんだらう、隣では貸さないのは知れ切つてるし、雜貨屋で買つちや叔父さんに打たれるし、あゝ困つた』庄吉は右つ左つ、あれかこれかと心を苦しめた。暗い空からは今にも雨が降りさうである。

中秋書懷　齋藤三貨
吟友聯鑣倒玉壺、太平街上最高樓、倚欄賞菊難醒路、仰看冰蟾方領秋。某閣暮時離別處、丈夫抜劍涙將流、不知天上銀河水、何日洗兵安九州。
暴陽日、[illegible]懷思、筆端繚繞　栗原華陽
同
金谷招來笑開頭。共待嫦娥來照樓、何處歌笙淸似水。同人當年健如秋。欄無塵影寒[illegible]動、草有淸光白露流。一醉陶然神縹緲、這間情趣活滄州。
暴陽日、眼前景物信口道出、使人在雲中。　閔正華
同
東都遊事十金甌、河上亭樓上石樓。何處黃花期九日、今宵明月最中秋。[illegible]詞能無客、氏亦有名流。[illegible]共吟會、無名業州餘俗及吾州。
暴陽日、寄句[illegible]詞、[illegible]獨造、信推巧手。

大隈侯總裁　澁澤男副總裁　大附錄　書翰文習字　(世間で日に用ふる紙習と文を作る手の便利な字)
自宅に獨習で中學程度の實業學問が學べるやうに
一ヶ年卒業の實業講習錄
●立身するにも實業　●出世するにも實業　●成功するにも實業
實物の第一號を見た御方は參拾錢御送金あれ
會費　[illegible]　帝國實業講習會　東京市日本橋區[illegible]　振替[illegible]
見本=無代進呈=ハガキにて御申越しの方に逐次送ります

婦人修養號　本日出來
婦女界秋季特別號
千里の道も一歩より　一人一訓　家庭教育と經濟　痩我慢も一つの修養　主婦として又母としての修養　催眠術の遠隔療法　脱腸は直ぐ手術せよ　百日咳の特殊療法　吃音も矯正が出來る　愛兒の疫痢と經驗　米騷動と生活問題　繼母繼子となりし經驗　女中に成功及び失敗の經驗　主婦の讀物　産婆　世間　人の罪
定價廿五錢　東京牛込加賀町　婦女界社　振替東京一二八三一番

新校舍十月二十日竣成　新學期開始　前に刷成　講義錄再版　財團法人電機學校　生徒募集　東京市神田錦町三丁目

通俗化學工業全書　日本藥學協會編纂
乳製品製造法講義　塗料製造法講義　ゴム製品製造法講義　漂白及洗濯法講義　酢及醬油製造法講義　インキ類製造法講義　酒類釀造法講義　製氷及飲料水製造法講義　油類及脂肪類採製法講義　硝子琺瑯及陶磁器製造法講義　化粧品製造法講義　砂糖及飴製造法講義　石鹼製造法講義　セルロイド製造法講義　工業藥品製造講義　人造絹糸製造法講義　廢物利用法講義　人造肥料製造法講義　染色法講義　人造香料製造法講義
五冊前金拂込二圓七十錢　十冊前金拂込九圓八十錢　廿冊前金拂込十二圓
通俗化學工業全書發行所　東京[illegible]　振替東京二八九六八

最新刊　書籍名集　大正職員錄　大阪屋號　京城本町

商業登記公告
[illegible]
京城地方法院

公示催告
[illegible]
京城地方法院

購買　朝鮮總督府遞信局　[illegible]

政局展開彙報

△人選は原氏に一任
原氏大命拜受と政友會領袖會議

政友會にては二十七日午前十一時より芝三緣亭に領袖會議を開き原總裁より大命拜受の報告を受け更に内閣組織の方針に就き原總裁より各領袖の意見を徵したるが結局閣員の人選配置等に關しては原總裁に總てを一任し一切他の制肘容喙を許さゞる事の申合せを爲したり（東京特電）

△加藤海相は留任か

後繼内閣海軍大臣には加藤現海相を留任せしむ可しとの說ある其筋の旨に據れば加藤現海相は胃腸病の爲め健康兎角勝れざるは事實なるも現職に堪へざる程の健康狀態に非ざれば原後繼首相より留任の勸告有りたる場合には多分留任するに至る可しと（東京特電）

△各省次官進退如何

各省次官の進退に就き消息通の觀測に據れば内田遞信、上山農商務の兩次官は斷然辭職す可く市來大藏次官は藏相次第にて留任可能なるも氏は大隈内閣時代より兎角健康勝れず病氣勝なりしを以て今回勅選貴族院議員となりしを好機とし暫く閑地に靜養する意嚮を洩し田所文部次官は頗る融通の利く人なれば留任覺束なかる可く小橋内務次官鈴木司法次官は留任し幣原外務次官は原氏首相として外相兼攝ならば當分留任し新大臣決定を俟ち徐ろに留否を決す可しと（東京特電）

△外相は伊集院氏

新内閣の外務大臣は駐伊大使伊集院彦吉氏に決定し兩日中に歸朝の電報を發せらる可し（東京至急電報）

△山公園侯訪問 原氏

原總裁は二十七日午後一時二十分東京驛ホテルに園侯を訪ひ大命降下の報告後組閣組織其他に就き懇談し更に山縣公を訪ひ同樣挨拶を爲せり（東京特電）

△山公退京期

山縣公は政局も愈安定に歸せるを見定め十月七日頃退京小田原古稀庵に入る可しと（東京特電）

◇聯合軍プリレツプ占領

勃牙利軍は今やヴエレス方面に退却しつゝあり尚聯合軍はプリレツプを占領せり（合同通信電報）

◇土軍捕虜四萬

アレンビー將軍の報告に據ればパレスタイン方面に於ける土軍の捕虜は四萬に達し鹵獲砲二百六十五門に達せり（合同通信電報）

◇伊太利軍アルバニヤ進軍

伊太利軍はアルバニヤ（希臘モンテネグリ間の王國）に進軍中なり（合同通信電報）

◇秘密條約無根
―米國務卿の聲明―

米國務卿ランシング氏は左の布告を發せり（華盛頓電報）

歐洲に於ては『英國は日本に聯し聯合國との間に秘密條約を締結せり』との噂流布されつゝあるも右は全く事實無根にして之れ獨逸が敵國間に不和を醸さんとする目的にて行へる惑亂運動の一例に過ぎず

◇クリミヤ半島獨立

クリミヤ半島はウクライナの羈絆を脫して獨立せり（倫敦電報）

◇ホ將軍極東都督

二十四日より西伯利政府とホルワツト將軍との妥協成立しホ將軍は同條たると共に極東都督を兼ぬる事となれり（浦鹽特電）

◇英領事拘禁さる

ストツクホルム來電‼英國領事ロツクハート氏は莫斯科クレムリンの監獄に拘禁され米國領事プール氏は赤衛軍の護衛の下にストツクホルムに到着せりと傳へらる（倫敦電報）

◇支那軍隊增派

支那政府は北京より一大隊の軍隊を浦鹽に增派するに決したるが來月匆々出發すべしと（北京特電）

◇三督軍講和促進

長江三督軍は目下南北講和促進の議を秘密裡に進行中なり（北京電報）

◇露國再輸出防止

英國より本邦向き輸出貨物の露西亞再輸出を防止する爲め從來實施されたる補償制度は之れを廢止す但し特殊管理の下にありし黃麻、カツチ、米、アスベスト、錫、護謨等の如き貨物に對しては右の例外として依然補償制度を存續す可き旨英外務省より來電ありたる旨英大使館より通牒ありたり（東京特電）

◇平元鐵道速成認可決定

平元鐵道速成に關する請願は二十七日の閣議にて請願を容るゝに決定せり（東京特電）

◇宇都宮軍司令官

廿七日宇都宮軍司令官來元直ちに歸龍の途に就けり（元山特電）

◇兒島警務總長

兒島警務總長は廿七日午後一時五十分著元元山警察憲兵分隊の視察を爲し同夜寧安丸にて淸津へ向ふ筈也（元山特電）

◎所謂反革命
獨勢力一掃されん

▲露國の過激派 政府は頃に社會革命右黨の頭目二名と共に二百名の反革命家を處刑したるが此反革命派とは何を意味するか鳥渡考へると帝政派の一味の如であるが事實は全く之に反して居る過激派の革命が成功すると彼等は先づカデツト黨と稱する立憲民主黨を反革命と稱し初めた然るにカデツト黨は議會に於て多數の議席を有し民主々義と責任内閣を主張し第一革命の際帝政沒落の爲めに甚大なる貢獻をして居る其中心人物としては第一次革命内閣の首相たりしルウオフ公の如きがある何が故の反革命であるか其後社會民主黨及びメンセウイキと稱する社會民主黨の少數穩和派をも反革命呼ばはりして熱烈なる革命家チエルノフ、ブレハノフ、チエレテリ氏をさへ反革命家と呼び更に

▲社會革命黨の右黨 中央黨同樣の烙印を付し革命の祖母と云はるゝブレシコウスカヤも同一の運命を免る ことが出來なかつた最後にブレストリトウスク條約締結の間際迄過激派と行動を共にしたる社會革命黨左黨までも反革命として排斥するに至つた斯の如く苟くも過激派の虐政に反對するもの、ブレストリトウスクの屈辱的平和に憤慨たるもの、露國の無政府狀態を慨するもの、獨逸勢力の跋扈を喜ばざるものは一網打盡に反革命派として處刑し若くは放逐すると云ふのが過激派の對內策である反革命派と云へば

▲舊制度の復興 を目的とする反動派でなければならぬが如上の政黨や其代表的人物には此の色彩が少しも見出されない故に反革命派と云はずして反過激派と呼ぶが至當であるが過激派政府は喜んで反革命派なる文字を使用する殊に外國に向つて此說を流布せんと試みて居る模樣がある最初歐米の民主國は露國革命の成功を喜び專制政府の沒落を祝し深甚なる同情を露國の革命に寄せたから過激派政府は自己に反對する純正の革命家愛國家にあられもない汚名を冠せ以て此の同情を繋ぎ止めやうとして居るのである立憲民主黨から社會革命右黨に至るまで

▲過激派政府に 反對して居る諸政派は舊政府に對しては毫末の同情をも有せず過激派より寧ろロマノフ王朝の沒落に貢獻する處が多くて遅れて舞臺に現はれた、過激派は單に革命に貢獻する處なきのみならず間接に之を妨害して居る何故なれば新政治の漸く形を成さんとするに當り彼等は亂步的諸勢力の結合を妨害したからである故に反革命なる名稱は寧ろ過激派に冠すべきで無政府狀態の有樣を喜んで國民の苦痛を少しも念とせざる過激派が何の革命であるか彼等が急速に國民の同情と支持を失ひつゝあるは當然の處置と云はねばならぬ聯合國も疾くに之れを見限つたが罷り。

▲獨逸は自己の 利益の爲めに之れを支持し監視し鞭撻し敎唆し過激派に反對するものを撲滅せしめ諸勢力の結合と統一的政府の成立を妨害して居たのである が聯合各國も一致的行動を開始し獨逸に對抗して居るから軈て反革命の過激派が沒落して統一的新革命政府が現はれ獨勢が露國から一掃せられる時が來るだらう（東京電報）

ガイダとガモフ（下）

一は精悍一は大膽‼新に現はれたる花形役者に現其一例としても、極東チエツク軍司令官チドリツクス將軍の如き、彼の豪著なる不穩の行動に對し、內心大いに憤慨し、遂に將軍の辭職を見るに至れり。之れ彼の人と相容れざる僅に一片例に過ぎざるが、彼が若年氣鋭其態度猶ほ依然として今日の如くんば、或は人心彼を去らざるとも知るべからず又は各互頭間の反目紛擾を惹起するやも計られざる也。兎に角ガイダは剃刀の如き勇士也。ガモフの悠然たる、全くガイダと其の性を異にし、彼は東洋流の豪傑也。彼は後貝加爾のセミヨノフの如く、烏蘇里のカルムイコフの如く、黑龍哥薩克のターマンにして地方名門の出也。彼は年四十前後の働き盛り也。而して決して凡人に非ず、遂に過激派の勢力全西伯利を風靡するや、ブラゴエチエンスクを中心とする彼の勢力範圍も亦、同派の爲めに蹂躙し盡されんとするや、彼は決然として故鄕擁護の爲に立ち、過激派の壓迫時々強烈なるにも拘らず、頑として彼等に對抗し最後迄も動かず、爲に過激派側に於ても其侮り難きを見て、極東蒙兵首長クラスノシチヨコフは、自ら出馬してブラゴエチエンスクの政權讓渡を彼に要求せり。茲に於て彼ガモフは、斷然其の申込みを刎ねつけたるより遂に兩軍の衝突となり、ガモフは一擧に敵を屠り首長クラスノシチヨコフを捕虜として直に投獄せり、之れ實に本年三月九月の事件にして、世の所謂三月のブラゴエチエンスク事件也、然るにガモフは彼を斬つて一氣に敵の撲滅を主張せし部下の勸告を聞かず、悠々其の機を失せしより、同夜ハバロフスクよりせる過激派の增援隊は突如ブ市に襲撃し來れるより、勝てる兇の諸を縮さりし彼が軍は見事に破れ、彼は身を以て對岸黑河に脫れ、爾來再擧を企圖して其機の到るを窺いつゝありたり。而して我軍のブ市占領と共に、彼も蹶起して陣頭に非旋を現はし、黑龍政府を組織せり。彼の行動は、ガイダの如く花々しからず、而してセミヨノフやカルムイコフの如く衆目を引かざる也。其は彼等と大いに事情を異にする處多く、從つて其機會も少く且つ地形上の不便もありたる爲也。事實に於いてガモフの人物手腕は、將來に見るべからず、彼も三月事件に鑑み悠々其機を逸する等の事は、最早之れなかるべく、彼が將來には屬目する處多かるべし。ガイダの精悍、ガモフの大膽洵に好對照也、之にセミヨノフ、カルムイコフ、ホルワツトを加へて、愈佳境に入らんとする西伯利の大ヒルムは、更に觀者に深厚なる興味を與へんとす。

◎特別輸送收入

特別輸送の大部は二十四日終了したるが之に對する滿鐵京管局の運輸收入概算は約百二十萬圓にして鮮線割當額は此の約三分の二即ち八十餘萬圓なりと而して特別支出は滿鐵本社線より貨車の廻送を受けしを以て其の料金及び鐵道院より派出せし二百二十三名の旅費給與等なるが平時の約三倍の收益を示せりと

◎山東省借款
六箇月間延期

朝鮮銀行日本興業銀行臺灣銀行の三行より中日實業會社を經由して山東省に貸附けある山東省貨幣整理資金一百五十萬圓は本年八月三十日を以て期限となり居りしが山東省の希望により同日以降六箇月間期間を延長する事となりたり尚ほ利率は年八分二厘五毛なりと

◎京畿稻作豫想

九月二十六日發表京畿道第二回水稻作況に依れば挿秧以來八月中旬に於て用水の爲め一部の被害を見九月上旬に於て多少氣溫の降下しこともあり其後天候順調生育良好に向ひ於て天候順調にて收穫は百八十九萬五千八百七十八石即ち前年に比し二割一分强增收の豫想なり

◎露國行郵便注意

一般遞信告示に依り西伯利以遠宛通常郵便物の西伯利經由遞送を停止されたる結果今後露國宛郵便物區分に關し島田遞信課長は九月二十六日附を以て各郵便局所長に對し通牒を發したるが其大要は沿海州及び薩哈連方面にして聯合軍及び露國聯合軍側の勢力範圍と認めらるる地方宛のものは元山、浦鹽間船便に係る場合の外哈爾賓局經由にて差立の事前項以外の露國各地宛のものは横濱局經由にて差立の事尚沿海州黑龍州及び薩哈連宛小包郵便物に就いては聯合軍及び露國聯合軍側の勢力範圍內と認めらるる地方宛のものに限り引受け其他の地方のものは之が引受けを爲さざる樣取扱ひ處理す可しと云ふにあり

◎鐵道從業員數

朝鮮鐵道に於ける六月現在に依る一般從業員數は職員五百廿五人雇員千九百七人傭人七千五百三十一人にして計九千九百六十三人を算し居れり而して右の人員に對して京管局の支拂ふ可き一箇月の總給料は二十六萬五千五百十圓也と

◎共進會と自動車

十月三十一日より大邱に於て開催さるべき慶北第二回共進會觀覽者並びに同地觀察者の便宜を圖らんが爲め同道より滿鐵京城管理局に大邱府と附近各地間に自動車の運轉を交渉中なるが同局にては恰も金剛山の自動車客減少期に向ふ折柄なれば同地の自動車を共進會に廻すべしと

◎石川博士入京

京都帝大敎授醫學博士石川日出鶴丸氏は二十七日夜安東より入京朝鮮ホテルへ投宿せり

◎門外懇話會

南大門外御成町古市町南大門通五丁目、蓬萊町、青葉町、西小門町、義州通の繁榮を圖るべく組織されたる門外懇話會にては二十八日午後六時半より例會を開催すべく同會の協議案中主なるものは門外發展策として塵芥車と龍山方面との聯絡により麻浦及び舊龍山方面を開拓するは門外を裨益する所尠からざるを以て電氣會社に之を要望する件なりと

◎廣瀨經理部長出張

廣瀨軍經理部長は會計檢査のため石井一等主計を隨へ來る三十日江原道及び咸鏡北道地方へ出張の筈なるが十月二十五日歸任す可しと

人事消息

▲平澤軍高級副官 鎭海灣重砲兵大隊勤務演習應召者入隊狀況視察の爲め二十九日馬山へ出張十月一日歸任の豫定

▲佛人ラシン氏（上海貿易商） 二十七日夜入京朝鮮ホテルへ

▲勝榮三郎氏（三國商會主） 同上天眞樓

▲道家明氏（前黃海道長官） 同上不知火

▲樋口虎藏氏（群山電氣專務） 廿七日夜退京

▲倉重吳介氏（東京貿易商） 同上

◇鳥瞰雜俎◇

何でも獨逸は屁古たれたらしい宰相がウイルソン君の擧げた講和條件に賛意を表して居る▲前外相キユールマンが六月二十五日の議會で『平和は到底戰爭に依つてのみ得らる可きものに非ずして更に外交上の手段を要す』▲と云つたのを大いに憤慨して獨逸で軍國主義を疑ふは是れ眞に一の罪科であると息卷いて外相を辭職させた軍閥共も何うやら妙な顏を爲て居るらしい▲軍閥派が其れ程の氣焰で實際腕にかけても勝つて見せると云ふ元氣があれば瑞西なんかを使つて休戰などを提議させる必要はないぢやないか▲如何に休戰を熱望しても實際に於いて獨逸が屈伏の意を示さねば駄目だ▲喧嘩が敗けて鳥渡待て水を呑むからこいつたつて其れは駄目だ▲相手は其間に敵に勢力を附けさす樣なぼんくらぢやない男らしく愈己が敗たから待てと云へば其でよい▲水入やの勝負は相撲に限る戰爭なこに使手ぢやない無論聯合國でも承知すまい▲元來獨逸は其の樣な事を云ひながらソツト足の方から家國を散々引つ搔き廻しつゝあるぢやないか▲第一瑞西は獨探の巢窟で其の樣な處から休戰說を出させなくとも獨逸が自身に云ひ出せば好いではないか阿呆らしい▲伊國の例のダヌンチオは八隻の飛行隊を率ゐて維也納の上空を飛行して頻りに小冊子を空中から撒布した▲其には無論墺國の降服を彼一流の見事な文章で書いてあつた▲墺國官憲は之を人々に見せない樣に頻りに苦心したが人々は爭うて此の敵國からの刷物を讀んだ▲果は一部が廿圓からの相場で賣買せられたので流石の官憲も手の附け樣がなかつた

◎支那産牛骨

[illegible]引なり此の外直接來貨を買入れ或は人を原産地に派し買收する[illegible]定められ城近兩三年の統計によれば[illegible]は鮮人の手數料普通一分乃至二分[illegible]を以て振り分たる後その色質を[illegible]時價格を定むる者にして一は從物[illegible]日本其の他に輸出せられし者なり[illegible]又商島に於て毎日屠殺する牛[illegible]

◎正信俱樂部[illegible]

課題及募集規定

京日案內

▲一回前金（郵券代用一割增）▲市內中止の前は料金不返還▲六回以上の申込は一回分無料▲照會は返信附にあらざれば回答せず 普通七拾錢

南大門正面 救世藥館 電話 藥物呼出 百番

醬油販賣店員 募集 龍山元町二 關西商會醬油釀造所 電話三九番

鍼灸術 リヨウマチ、脚氣、神經痛、肺病、心臟病、胃腸病、婦人病… 京城黃金町三丁目郵便所前 電話一〇八七番

分析及鑛床調査 電話一三四四 京城 鑛物試驗所

砂金靑金高價買入れ 御一報被下出張可仕候 京城旭町一の七 中村分拆所

恩給立替 金は證書引換に御渡し致します 京城若草町郵便ポスト前 西村商會

ほねつぎ うちみ くじき 一切の治療御依頼に應ず 明治町 柔術道場

毛皮なめし並仕立 鳥獸剝製標本類調製 京城本町二 電話長二〇六五番

事務員募集 希望者は自筆の履歷書携帶至急來談あれ 京城南大門內 救世藥館

京城公立高女同窓會 來十月一日午後一時母校にて開催 時局に關する陸軍將校の講話其他の催あり揃つて御來會ありたし

內地人女子募集 三十歲迄 龍山 總督府印刷所

花柳病外科專門 梅毒・淋病・泌尿生殖器病・痔・瘻病・肛門病・皮膚病・婦人病・神經衰弱・ヒステリー 京城南大門通農工銀行裏 司生堂醫院 電話三〇六五番

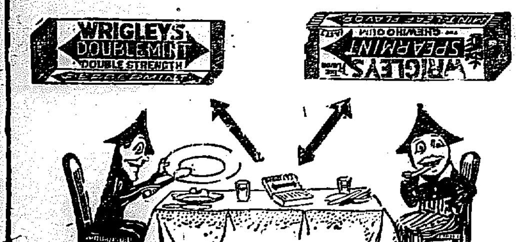
正誤 大正七年九月廿日發行京城日報朝刊第一面廣告欄阿波紡織株式會社登記株金拂込公告中末尾の創立發起人總代『谷延次郎』とあるは『谷延次郎』の誤植に付訂正す

大達燒酎
特約販賣店
仁川 河野本店
京城 同支店
木浦 阿波儀商店
同 山口號本店
同 山本酒店
群山 山口號支店
同 長谷川商店
釜山 增永商店
同 山邑支店
鎭南浦 吉富商店

懷石御料理
櫻楓谷間の紅葉の景色よろしく候
京城旭町一丁目
松秀庵 白水 電話一参九一番
別邸 望月軒 電話三〇〇番
置屋部 玉屋 電話一七一四番

製產費昂騰に付 壹割値上仕候
大正七年九月二十日
日本ポルトランドセメント同業會社

秋……腸胃病
永の暑氣で一番大切なる腸胃は衰へて食物の消化惡き此頃油斷をすると惡疫に罹り易し今は腸胃の保健に專ら注意すべき季節なり、此際腸胃藥として最も確で且速に効驗ある本劑を備へ置かるべし
登錄商標
健胃固腸丸
主治 食傷、寢冷、時候あたりから起る下痢と腹痛を治し腸胃を強健にす
價 三十粒入拾錢 七十粒入貳拾錢 二百粒入五拾錢 四百廿粒入壹圓 千三百粒入三圓 二千二百粒入五圓
本舖 大阪市東區伏見町二丁目 東京市日本橋區新乘物町 谷回春堂
各藥店にあり、商標及本舖名義に御注意あれ



リグレー製チウインガム
衞生的の口錠菓子です。
口中を爽にし、歯を白くし、
食物の消化を援けます。
御飯の後で是非一枚‼
御試しの程を願ひます。
（甘露のスピヤミント）（薄荷のダブルミント）

代理店 朝鮮京城 太平通二丁目廿八 エフ、エス、木商會（新昌洋行）

[illegible]網れ牛骨仲買商の手を經て取扱は[illegible]格は季節に因りて異なり毫も一定[illegible]收するものと一は仲買人の手を經に就き時は注意せざるべからざる
し價格は百斤單位とし總て現金取せざるも貨物の多少によりて略標て買入るゝものにして後者の場合事は牛骨内に往々土砂を混入しあ稱に分つこと[illegible]
[illegible]せざるべからず其の價値段は[illegible]は豫約成立の
[illegible]島間十五噸積約三百二十五袋貨車滿載の時六十二元八角五分を要し尚
[illegible]つ天津に搬送せられ天津より更に
◆從來滿南に 來集する牛骨は先[illegible]州方面より帆船にて青島に輸送せられし牛骨は毎月五千斤乃至二百[illegible]
[illegible]七八角[illegible]にして[illegible]に比し約十分の低廉にして百斤に就き一元六角內外なり

天氣豫報 曇り但し小雨

日本兵の來るまで（一）

ハバロフスクの混雜

夜中に驚いて起きて見ると 待ち焦れた日本兵の來着

喜びを抑へて語る八市居殘りの邦人の話

從軍記者 金谷眞

『九月五日の未明川名騎兵大尉と修羅場で逢つた時の嬉ばしさは今に忘れません……』とハバロフスクに居殘つた長崎縣人阪倉守三氏は一週間前の戰さ話を語り出した『何分私共六十名の居殘り者は約五百名の避難者に離れて不安のまゝにハバロフスクに踏み止つて居ましたので日本軍の顔を見てどれだけ喜んだか知れません、またあれ丈早く乘込んで來ようとも思ひませんでした、九月五日の朝の事です、私の家の戸を破れるやうに叩く者があるのでさては愈

◆過激派の御入來 かとピストルを片手に覗いて見ますと戸外には一人の哥薩克がフウ〳〵呼吸をはづませて居ります、『オイ〳〵日本軍が來たぞ〳〵!!』と叫んで居ります、よく見れば擦て私の知つた哥薩克で、わざ〳〵私に知らせて呉れたものでした、其處で表へ飛び出さうとしましたが何分ハバロフスクには八月以來戒嚴令が布かれてあつて夜の九時から朝の五時までは外出するとが出來ません、然し日本兵と聞いてはヂッとして居られずそのまゝ近所の雜貨商島飼さんの店へ行きました、誰!!行かうといふので二人が馬車を飛ばせて

▲停車場へ 向ひますと路傍に生々しい鮮血が滴つて二人の過激派兵が殪れて居ります、さては愈日本軍が來たなと勇み立ちつゝ行つて見るとそれらしい影も形も見えません、再び元の道へ歸りかけると左手の丘に日本兵らしい赤帽が二三騎見えます、大喜びで馳せつけて見ると其處には一名の將校と四五騎の騎兵が疲勞困憊して集まつて居ります『ヤア！』と言つたなり飛びついて見ると双方共に夢のやうな氣がしました、其の中の一大尉は川名市徳と記した名刺を出されて『今し方敵が自分等に向つて射撃したから二名

◆彼處に撃ち殺し てやつたが市街の樣子は什麼風か……』と聞かれます、私共は『なあに大丈夫です』と答へたもの、味方は極めて少數に見ゑましたから此處で一番死なねばなるまいと急に決心を定めた次第でした、大尉はつゞいて『今過激派の司令部を占領してやつたが何分自分等は二日二晩飯を食はぬ、人馬諸共に此有樣だ』と非常に疲勞の體でした、其處で私は島飼さんと共に居留民に通報して『早く米を持つて來い、薪を持つて來い』と狂氣のやうになりました、その內近所の洗濯屋齊藤耕次さんの宅に

▲米が一俵 ありましたのでドン〳〵炊き出す、其處へまた支那人が大きな鯉を持つて通るので一尾十二留といふのを六留にまけろといふと、支那人先生も『日本兵の爲めだよろしい半分まけてやらう』とコソ〳〵手傳ひまでして呉れました、其處で生のまゝ醬油を打ち込んで『サア早く握り飯々々!!!』と各自に釜の飯を掴んだはよいが餘り熱かつたので一同揃つて火傷したのも御愛嬌でした、兵隊さんはまた兵隊さんで生の鯉には眼も呉れず『お先へ失敬』とばかりわれも〳〵と握り飯を掴まれました、其間に餓鬼道に墮ちたとはあんな時のことでせう、日に燒けた顔と黒い手の握り飯!!!私は思はずホロリとしました、一方馬は何うかと麥を心配して運んで來ますと馬も二晝夜喰はず飲まず一袋の麥に三四匹が鼻をならして集まる有樣、とても談しても及びません、間もなく川名大尉は『よし之れから一度市街を廻つて見る!!!』と再び馬に跨りました、市街をみると辻には點々日本兵が警備して居ります

露人の好意 と嚴格な日本兵

露人の中には兵を犒ふ爲にパンやお茶を持つて來る者もありましたが其處は日本兵です、頑として眼も呉れぬ凛々しさです、私等は二晝夜の斷食を思ひやつて早くおあがんなさいと言つても『上官の命令が無ければ死んでも喰はぬ……』この返辭です』しかし一方過激派の

◆逃げ遲れた部隊 もあり僅か將卒共に廿七騎で乘り込んだ川名中隊が何うなるとかとか心配しました、しかし一方カルムイコフ大尉の哥薩克兵も跟いて來たといふとだがこれも當てにはならないと一時は却々心配しました、それから兵食の用意、夕食の用意、鷄を買へ卵を集めろと大騷ぎしてゐる間に步兵第〇〇聯隊第〇〇隊の千葉大尉殿が乘り込んで來ました、此の隊も步兵でありながら騎兵につゞいて乘り込んだので一同非常な喜びでした、〇〇騎兵聯隊長の到着もその前後で入城式には彼處でも此處でも露人が盛んに草花を投げかけました、あの日の草花はなんでも小さい一束が一圓からしましたから

▲數千圓の 花代です」露人の喜びは非常なもので中には爆慢な過激派の手から逃れたと眞に落淚して感謝する者もありました

此の頃はハバロフスクの資産家が皆沿海州方面へ避難してゐますけれどあの人達が居たら更に什麼大歡迎をやつたか判りません、夫はそれから千葉大尉と共に停車場及び附近の兵營を占領に行きました、驛長に會つて兵舍全部を明け渡すか何うかと嚴談〳〵ると直『よろしい』と應じました、翌六日にはまた

◆神野騎兵大尉と 共に黑龍沿岸の裝甲列車を捕獲しました、行つて見れば野砲二門と砲彈が二貨車ありました、四、五、六、七の四日間といふものは殆んど占領捕獲で飯を食ふ暇もありません、それに面白いのは今迄過激派の紅旗のみを飜してゐた市街の店も官廳も日本軍來の聲を聞くと共に直ちに舊政府即ち帝政時代の三色旗をあげたとでしたも一つ紫色の過激派の腕章を附た露人等も悉くそれを取かへました、市中一般日本軍來の聲と共に何となく景氣一變して活氣立つたやうに感じられました……序に夫迄のハバロフスク居留民は八月初旬大部分引揚 私共も露國の知人から

▲早く避難 したら何うかと忠告されたものでした、然し私等は飽まで居殘ると決心して毎日相變らず商賣してゐましたが過激派は別に邦人に危害を加へるとはしませんでした、當時居留民會は自衞團なるものを組織し各自に拳銃を渡したり金を用意したりして居りました、愈日本の出兵といふことを聞いたのは八月初チ、ハル領事館の書記生の通報によつて知りました、其の後八月二十五日頃にはチェックが敗たとか過激派が敗たとか言ふ風評があつた支那人の店舖も一時支那領へ引揚の準備を爲し現に日本軍が來着する一週間以前からは揃つて表の戸を閉鎖しました、九月二日のことで何んでも

◆日本軍が烏蘇里 線のビキンを占領したといふことを聞きました、然しわれ〳〵は日本軍が海路ニコラエフスクに上陸して黑龍江を遡江して來るだらうと信じて居たので聊か半信半疑で居りますとその後過激派の兵がイマンビキン方面から續々逃げてハバロフスクを通過します、彼等は月給に釣られたやうな兵隊である爲め所々の掠奪でしこたま儲けた金をドシ〳〵ばら撒きつゝ逃げて行きます、中には黑龍線の汽車でアレキセーフスカヤに行くのもあれば川船で上流ブラゴエチエンスクに落行くのもあります、また馬車に乘つて酒を飲みつゝ行くのもあり殆ど三日間に逃げました、尤も最後の日には日本の飛行機も飛びました、仕度は實に盛んなものでした、尤も

▲日本兵の まだ來ない前に街には一時大騷ぎがありました、ある日――それは何でも入城當日の一週間ばかり前かと思ひますが――朝の九時頃突然一發の爆聲が聞ゆると續いて二發三發と連續して響きました、街ではサア過激派が事を起したのだといふので驚いて居ましたが仔細を聞けば一名過激派兵の醉つ拂ひが不平のまゝに爆彈を投げたものと解りました……日本の兵隊さんが來てからといふものは主として鳥飼熊記氏（長崎縣の人）西崎金三郎氏（長崎縣の人）松尾梅次氏（福岡縣柳河の人）杉浦桂次郎氏（東京の人）齋藤耕次氏（栃木縣人）それに私の六人で方々を通譯しました、其の後大井師團長閣下からも宮內聯隊長殿からも感謝の御挨拶がありましたが兎に角這麼愉快なことは有ません」

從軍寫眞畫報

（一）ハバロフスクを出發して長顧ブラゴエチエンスクを衝かんとする我騎兵隊の一部（二）兵士達が一露人の商店より買物をなす（寫眞の兵士は京城出身者也）（三）ハバロフスクに入れる光輝ある我騎兵聯隊

本社從軍記者 金谷眞撮影

禮の大意（三）

青戸波江氏講演

併し尚ほ食物とか身分の高い方の所持品などはもつと高く上げて眼の邊に捧げるのである、即ち場合に應じて顏の高さ、胸の高さ、腰の高さと區別を立てねばならぬが固より動作の上から自然に制る事柄である。次に捧げ持つ、提め持つ、授け持つと云ふことに就て話すと

◆捧げ持つ 場合は手が斯うなる（兩上肢を差出し掌を上に向く）言葉に於ても『此を差上げます』と即ち我身を陰にし先方を陽にした形である、それが進め持つ時には手は斯うなり（兩掌を內側に向く）言葉も『此を君に上げよう』と別に敬語ではない。『此を汝に遣るぞ』即ち授け持つ場合は斯う（掌を下にし指を曲げて物を握りたる形を爲す）なる、物の持ち方でも以上の如く三通りになる。久方の天より下すたまほこのみちある國といまのわが國、之でなくてはならぬ、序に申上ぐると右の手を『とり手』と云ひ

◆左の手を『うけ手』といふ。右の方から來たものは右手で、又左の方から來たものは左手で受けるが眞正面からのものは何うするかといふと其時は右手即ちとり手で取つて左即ちうけ手で受けるのである。吾等の事は古人が定めて居るから夫を守るといふのではない、我身體の各部分にも夫々貴仕があつて互に犯さぬ樣出來て居るのである『立てるに授くるに跪かず、坐せるに授くるに立たず』といふ敎へもある、禮には忠恕の心、思ひやりの根性が本である、故に立て居る者に物を渡す際は已も立ち、坐つて居る者に對しては已も坐る

◆之を萬事 に應用して敬禮の時は立つて居る人には此方も立つてする、立つて居る人に坐つてお辭儀をして窮屈な思ひをさしてはならぬ『ゐながらに折らんとすれば枝高く咲ける櫻の花を如何にせん』『立ちながら掘らんとすれば根深く親の下に生ひたる』是れ即ち立てるに授くるに跪かず坐せるに授くるに立たずの理とピッタリ合致して居るのである。又爐を乘るとき盃を乘るが如く座に入るとき人在るが如くせよと云ふことがある何も盛つてない

◆空の器を 持つ場合と雖ども決して粗末にせず人の居ない部屋に入るにも不作法な擧動をしてはならぬと申すことである。戸の開かれたる時は即ち開く戸閉したる時は即ち閉ぢよ。是は何でも無いことの樣ではあるけれども不注意の人は動もすると誤つて困る、戸が閉てある所へ這入つたならば己も閉づるがよい、反對に開けて置く所に這入つた時は其の儘開けて置くことこそ禮の道に適つてるので夫を態々閉るのは禮の精神を辨へぬものと云ふべきである。只戸の開け閉ぢに限らず

◆此道理を 何事にも應用しなければならぬ。さて是等は皆一個人の禮に就て申上げたのであるが、是等の禮は我國に於ては何から出てゐるかと云ふ其源をお話したいと思ふのである。

廉賣廢止

九月三十日限

救濟會評議員會で決議

京城救濟會にては先般來引續き米及び粟其他につき廉賣及び赤貧者救助の目的を以て米粟の施與を爲しつゝありしが之れに要せし費用は莫大なるものあり而して一方新米は續々出廻りつゝありて白米の供給量も幾日に比し頗る豐富なり一般細民の窮迫狀態も大いに減退せる傾向もあれば救濟會にては二十七日午後二時より京城府廳內に於いて評議員會を開き施米休止及廉賣停止其他決算等の事項に關し協議する處ありしが結局左の二項を決議して散會せり

（一）施米は二十五日限休止せること

（二）廉賣は九月二十八日廉賣券の配付を最終とし九月三十日限停止すること

哈市駐屯軍 市中行軍

哈爾賓駐屯の我軍隊は哈爾賓市街を早學の名目の下に二十六日早朝三時間に亘る市中行軍を行へり、在留邦人は全部三井及び正金銀行前約四五町の間に整列して見物せり聯隊旗を捧げて威風堂々喇叭の音勇ましく吹奏して進み來れる皇軍將卒を各國外人環視の裡に迎へたる在留邦人の歡喜と誇りは喩ふるにものなかりき（哈爾賓特電）

元山灣內に 鯨群現はる

二十六日午後三時元山灣內に十數頭の鯨群現はれたるより鮮人等發砲せしも中らず鯨群悠々として外に去れり實に珍らしき出來事なり（元山特電）

◎助產婦と看護婦 總督府醫院にては助產婦科看護婦科生徒若干名を募集せる由は既に二十一日朝刊欄外に記載の通りなるが右は十月二十一日新學期開始の由にて入學資格は年齡滿十六歲以上三十歲以下の內鮮女子にして身體健全品行方正なるを要すと猶詳細は同醫院庶務部に問合せられたしと

鮮銀手形僞造 事件判決

本年一月熊本縣八代郡鏡ケ浦に和船を泛べ數名共謀して其船中に於て朝鮮銀行額面五十錢の支拂手形約千枚僞造し朝鮮滿洲を股に懸け行使せんと企てしも事發覺し其筋の手に檢擧されし熊本縣宇土郡三角町岩本松太（四八）熊本縣飽託郡本山村田中五八（五一）高知縣高知市茶屋町乘次久吉（三）大阪市東區久寶町石阪職工片尾芳松（三）京城府本町中村鷹市（四）大阪市南區順慶町近藤滿二郎等に關する僞造銀行券行使被告事件は共京城地方法院檢事千與審理を遂げ同法院に於て[illegible]の係り豫審判事會にて岩本松太、田中五八各懲役二年六箇月、片尾芳松、乘次久吉各懲役一年六箇月、中村鷹市懲役八箇月、近藤滿二郎無罪の判決言渡しありたり

讀者文藝（一等には五十錢の謝儀を呈す）

▲俗謠『秋の水』

◎雨の足には撥てか濁る汲めば手に澄む秋の水（一等） 仁川本町四丁目一の一七 草花操郎

▲木の葉浮べて夕月みうけて餡漂ふ秋の水 京城、東、海

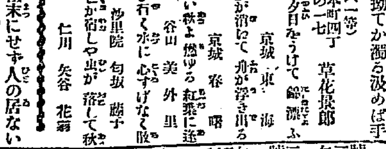
▲昇る旭に狹霧が消えて舟が浮き出る秋の水 京城 春曙

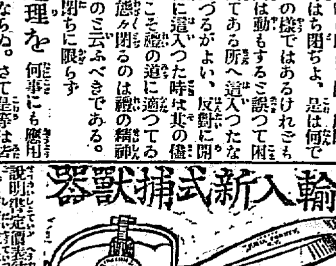
▲水の心は冷たい秋よ燃ゆる紅葉に逢ひながら 谷山 美外里

▲秋の七草結び行く水に心すげなく散りし 沙里院 句坂 勘子

▲露の月なぱ芒が宿しや虫が落して秋の水 仁川 矢谷 花霧

◎ 出た何が 大懸賞繪さがし 但し回答者は一人一通限り
此の指輪の繪はにかあてた人に左記の指輪無代進呈
十八金色にて銀象眼入花鳥山水彫刻一號 一號二匁 二號一匁五分 三號一匁
廿二號 卅三號 五十
合計百個 右三種の內一人一個限り差上げます本品メッキ又は銀張金張如き一時的の物に非ず永久保證附の逸品であります
有効期間本紙掲載後七日間 賞數に限り有り 送料郵券にて申込め 東京牛込揚場天町三番地 東洋金屬製作所



直輸入新式捕獸器 ◆けものころきかい◆

說明書定價表往復ハガキにて御申込み次第送呈仕り候
毛皮高價買入可申候
天產物肥料 貿易商 橫濱市吉町一丁目（公園前） 吉川米次郎商店 振替口座東京一四二〇

禿部に毛髮 [illegible] 村井弦齋先生
[illegible]塗擦液 小森寅代三
神經衰弱病に神經衰弱、ヒステリー、頭痛、腦貧血リウマチス、慢性胃腸病、不眠症、糖尿病、病後の衰弱等に[illegible]
婦人世界[illegible] 東京芝櫻川町十六 小森原生堂藥舗部

縞セル 一反の二圓卅錢
[illegible]

內科 小兒科 皮梅科 外科 一般 婦人病 花柳病
朝鮮診療病院（入院隨意） 京城黃金町二丁目（長橋通角） （電話二八三七番）

優等清酒

福岡縣三井郡山川村 醸造元 富安本店
京城永樂町二丁目 發賣元 富安支店 電話四一二三 振替口座四二三九番
樽賣御斷り

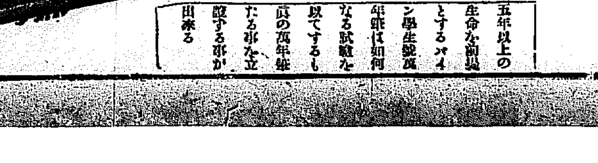
眼科專門 入院隨意
京城明治町東拓橫（電話二〇四四番） 江頭眼科醫院 日曜祭日午後二時迄 江頭富雄

資本金 貳千貳百七拾萬圓
積立金 壹千參百參拾萬圓
總預金 貳億七千萬圓
株式會社 第一銀行京城支店 京城本町二丁目 振替貯金京城一〇六二一一番 電話二二三一七番
頭取 佐々木勇之助 支配人 西村道彥

內科 胃腸病 診察夜九時迄 京城本町一丁目 石川醫院 電話一二七二九番

美乳クリーム 皮膚を白くする 皮膚を白く柔くする
またコンナ珍しいものが日本に初めて出來ました
美乳クリームが最近御婦人の間に何うして斯う評判に上つてるかと申しますと第一日本に初めて出來た美乳の美白成分を基礎として學者が創製した雪白色のクリームだけあつて生地を白くするばかりでなく皮膚を柔かく天然に色白くならしめ白粉下として決して化粧崩れのする憂ひがないからであります……
定價貳十五錢
本舖 美乳本舖 矢野芳香園

痔疾專門 入院隨意
京城明治町一丁目 本町より入る中程（電話二二〇二番）
京城久枝肛門病院

パイン學生號萬年筆 附五年以上（九久）
金貳圓八拾錢
送料 鮮內無料 內地外十錢

五年以上の生命を前提とするパイン學生號萬年筆は如何なる試驗を以てするも眞の萬年筆たる事を立證する事が出來る
京城太平通電話局十八番 發賣元 京城日報代理部 振替京城三〇〇番

大三林檎 百圓進呈 阪北詰角 大阪有田ドラッグ商會
りん病 はい毒 帝國醫科大學病院 淋病藥主藥は治癒劑として梅毒藥主藥は驅梅內服藥として醫學上最有効と確定し證ありる事を保證す若し前述の證言と違へる事を發見せる時は百圓進呈
あらゆる治療を試みて効なき患者に御試み下さい
にせ物 東京大阪各地ににせドラッグあり 大阪有田藥を買取あれ
京城南大門外停車場通 ドラッグ商會滿鮮本部（振替京城四六〇番 電話二五六七番）
京城黃金町三丁目（支店） 龍山藤兵營前停留所（支店） 釜山大廳町二丁目（支店） 元山本町三丁目（支店） 平壤櫻町十二番地（支店） 仁川宮町二丁目（支店）
朝鮮のにせ物 京城、龍山、仁川等各地ににせドラッグあり購着せられざる樣御注意を乞ふ
譲受藥種他藥店販賣不許 全國到る所の都市朝鮮滿洲南滿臺灣等に支店あり
東京日本橋通四 大阪心齋橋筋本町 有田ドラッグ商會
京城龍山等各地に僞物有 御注意

妻の心 百五

十七の一 小林蹴月作 武内桂舟畫

『は、』はア、此處だつたのか。隨分分かりにくい所で、足が擂古木になるほど探したよ。』

格子戸をがらりと開けて、狹い小穢い靴脱へ入つたのは、町川久三郎であつた。

丁度今、家の中の拭き掃除を了つたばかりと見えて、姉さん被りに襷掛のお瀧は、格子戸の開いた音に吃驚したらしい眼付で、そそくさと其處へ出て來たのであつたが、久三郎の紳士姿を觀上げて二度吃驚の顏色。

『誰方で御座いますか。若しやお門違ひでは御座いませんかね。』

『いや、突然で何ですが、柳橋に居つた若龍の阿母さんと云ふのは貴女ぢやありませんかな。』

『はい、手前が若龍の母親の瀧でで御座いますが……。』と。お瀧は尙不審さうに久三郎の顏を眺めて、一寸思案の體であつたが、

『おつ、貴郞樣はあの娘がお世話になりました町川の旦那樣では御座いませんか。』

『は、は、は、その通りですよ。只だ下谷の稻荷町とのみ聞き嚙つて居たので、探し附けるのに閉口したですが……若龍は多分在宅でせうな。』

『はい、娘で御座いますか。娘は只今一寸水天宮樣の御緣日だと申して、蠣殼町まで參詣に參りまして、』『まあ此方へ何卒お上がり遊ばして下さいまし。』

暇を取つて出て來てから、まだ四五日しか經たないのに、久三郎自身で遺々厄介な所まで娘を探し尋ねて來るには、何れの道此方の爲めに不利益の話ではあるまいと老功のお瀧は、逸疾くもそれと推して、故意に愛嬌好く待遇振りを見せるのであつた。

『は、はア、留守だと云ふんですか。そりや大いに當が外れたが、歸りは恐らく何處へか廻るでせうね。』

『いゝえ、多分そんな事はなからうと存じますんで。取散らして御座いますけれども、お二階が空いて居りますから、お上りになつて一服お吸ひ遊ばします內には必ず。』

『はア、然うですか。では出直して來るのも大變ですから、暫時お邪魔をすると爲ますかね。』

久三郎は、帽と外套を脫ぎ捨て、お瀧の案內する儘に、ぎしつく梯子段を二階へと通つた。先づ初對面の挨拶やら、昨夜以來大暴風雨の烈しかつた噂やら、何やら彼やらに二三十分餘りを費した後、お瀧は切てお茶なりとも入れやうと思ひながら、御免を蒙つて階下に退つた。

『お座敷へ贅衣を著飾つたりお化粧を凝らしたりして現はれて出る時の藝者なんて者は、流石に艷麗なものだが、斯うして自宅を訪れて見ると、鎧の裏のボロ屑と同樣の感じだ。生ツ粹の江戸ツ兒だとは聞いて居るが、彼のお袋の穢くろしさと云つたらお話の外ではないか。それに此の二階の爲體は何だ。古い鼠葛籠の上に鏡臺が光つてるかと思へば、油汚點だらけの秋と襤褸の寢衣褞袍が狼藉に雜居しさるなぞは、別して心細い。是でも柳橋で鳴らした若龍の實家かと思へば、寧ろ濟猿しの淚が零る位のもんだね。』

久三郎は、待ち暮す間の所在なさに、獨りで遺恨事を考へたり呟やいたりして居るのであつたが、軈て何心なく窓際の處に投げ出してあつた演藝畫報を引寄せ、見やるともなく俳優の似顏だの寫眞だのを見もてゆく內ほろりと手元へ零れ落ちた一通の文殼があつた。素より封筒も何も取捨て、了はれたものと見えて、揉み苦茶になつたほんの裸の文殼であつた。久三郎は、一時的好奇心にそゝらるゝ儘に、端の方から徐々と拾ひ讀して見ると手跡も文言も甚だ稚拙とは云へぬが、確かに女である。

‖御承知の通り臨月も愈切迫致し候儘、今の內ゆる〳〵御目もじ致候て、町川家へ乘込みの手筈取極め申度、今晚にも座のお歸りがけに御立寄り下され度候、尙駒子さまとは、まだ一度もお目もじ致さず候へども御兄弟の間柄ゆゑ御前さまより良々も御內談下されお互ひに都合よろしきやう御取計らひ下さるやう御頼み下され度候、一體町川さまと云ふお方は、表面紳士の如く相見え候へども女には極々のろき質にて、如何なる欺し事でも至つて手輕に‖さ

迄まで讀來つて、久三郎は赫つと顏色を火に爲た。忙しく末尾の方を繰開いて見ると、紛くべし、差出人は正しく我內妻のお芳で、宛名はかねぐ若龍の駒子から聞き及んでゐる駒子の實兄……なつかしき欣一樣へと爲てある。

今秋の流行

流行も仕立も昔風なものが蘇生へつて來た……

この秋の流行には地色に黑茶、茄子紺、鼠又若い者向きは小豆色と牡丹色の中間をとつた色合が流行の中心となつて居ます、それから柄としてはやはり縱縞の全盛ですが、この秋には縱縞の間に横をあしらつたものが

◇新らし い流行ですこの他柄として格子は近年全く廢つて居ますが又二三年來廢りかけてゐた絣がこの秋から冬にかけて流行するさうです、夫から久しく影を見せなかつた小紋柄がいよいよこの秋から流行するさうです袷著を

◇小紋柄 にしたものは地色の濃いものよりも白つぽいものです又この小紋は東京としては、是れからの流行ですが、京、大阪邊は既にこの夏からの流行だと云ふ事です、次にセルは從來から餘り變化のないものですが、今年は縞柄が

◇非常に 大きくなつて來て色合ひに趣味を含んだものと變りました、その地色もこれ迄は單純であつたのがこの秋の流行には二種三種以上の地色を混じて面白い縞を出して居ます、次に帶はまだ絞りの全盛ですが絞りは春先とか秋に

◇相應し いものであると云はれて冬著には配合の好くないものと云はれて居ます、帶として近頃迄は博多なこの地厚なものが喜ばれませんでしたが、この秋の帶には滲地ものよりは博多、琥珀、鹽瀨等の

◇厚物が 出て居ります又半襟は一體に季節より先へ〳〵と進むものですから冬著から袷に移る場合には夏襟の絽縮緬などをかけますが單衣から袷になる時には冬襟の滲色を用ゐるやうになつて居ます

皮徽科
皮膚病 黴毒病 淋病 膀胱病 生殖器 機能障碍
入院隨意 (診察夜九時迄)
日曜祭日午後二時迄
京城明治町二丁目(元町)
佐藤醫院 (電話一一七三番)

◎風邪を引かぬ法 鹽湯で鼻腔を洗ふこと

寒さに向ひますと毎年の事でありますが風邪を引く者が多く出來ます、少し涼しいナと思ふと直ぐ鼻の中がむづ〳〵して嚔の連發と云ふ事になります、單純な感冒はそれ程恐るべき病氣ではありませんが感冒を引いて居る身體は他の怖い病氣が侵入し易いのですから些々たる鼻つ風でも注意しなければなりません、乃で

◇感冒を 引かない豫防法は少しばかり冒されても未だ烈しくならぬ中に逃く治して了ふ方法で誰にでも出來るのを申し上げませう、それは溫い鹽湯で鼻の奧から口へ掛て＝六ケしく云へば鼻腔內を洗滌するので慣れぬ人は大層痛く苦しい樣に想ひますが決して左樣ではありません先づ洋盃へ鹽を一摘み入れて之に湯を注ぎ水を足して恰度人肌位にします夏なら水でも宜しい之を鼻に當てがつて鼻の穴から吸込みますと自と口へ出て來て決して

◇咽へは 通りません、之を直吐き出すので斯くする事數回に及べば鼻の中は善く通つて大變快い心地になります之を朝晚二度位る繰返しますと滅多に風邪を引く事もなく引いても直治ります事受け合、畢竟一番先に寒さに冒される鼻腔內の粘膜が強くなるが爲です湯の加減さへ善ければ決して痛いものでありません試みにやつて御覧なさい

子規忌俳三昧 第十夜

蜻蛉 冷 浮碧樓

○

女と先へ蜻蛉の明るさに堪へない

用器繭に忘れてしまつた畳の蜻蛉を見るまい

錢をばら〳〵に落して蜻蛉が反れてゆくや

朝が冷たくて勞働人に煙草の火を借せた

延木冷やかに朝の洋服をつけて妄なく

○ 芹郎

こんぼつたものうき日中のこさん

頭まんまると刈出てなだらかな去

蜻蛉流るる女の日課を笑つてやつた

蜻蛉とつるみ水の流口がない

牧師の宅の灯さへも見ゆ冷る木立

無口の娘が帶しめて今夜も冷覺か

我儘な子が蛤の夜の陸子冷かな

貧民の子がさけぶ今朝の鶏冷

○ 清耳樓

蜻蛉こびりつく手前で車を下りる

飛石の冷たく朝日の蜻蛉が死んだ

芋幸執着の男が吃の男がかゆく

畑芋と肥と妻のあざやかな

○ 桃平

蜻蛉隣の人で街角で云ふでなく

冷たさ土の色迫て噂悲の睡すべし

芋畑畑肌芋に蹤あてまじくて

○ 眞藏

蜻蛉とまる見る其日私によくなく

町角急いで曲る芋屋親爺の眞向き

○ 茂

町の小母に逆る芋で掬つた

戻りが冷たく二階見ゆる心が冷

○ 鳥堂

いう眞日、私の枕木の蜻蛉蜻蛉

蜻蛉流去流夫殉教者いま見よ

こんぼの羽が光つて草物に水

赤蜻蛉物のよい止つて翻を感じ

濱の夕榮が生む蜻蛉は無數です

冷い夜の鬪と彼方の作物を愛し

棕櫚の葉折れて流る空氣が冷かな

新刊紹介 (到着順)

▲學と家庭理科百講 (清水俊之著) 飲食物及び日用品との他雜品文房具衣類食器類及び電氣瓦斯飛行機寫眞等並びに動植物天文等生上の非常在る日常吾人の周圍に在る物に對して通俗に科學的の說明を原色版其他の圖入にて詳述したる有益なる著書なり(八十五錢東京博文館)

▲圖說害虫と益虫 (長野菊次郎著) 原色版の口繪あり此書は益虫と人生の關係を說き實地に施し易き害虫の驅除及び益虫の保護繁殖法を迄へ一々圖入にて素人にも解り易く探說したる良書なり(一圓廿錢東京博文館)

▲婦人界(婦人成功號) 婦人の成功とはどういふ事か(宮田修)私の今日の境遇を作つた原因(鋼質)內助の功、鳩山夫人と其の他名流の實驗に成る處世法、家計料理、育兒、經濟、裁縫、手工衞生等の有益なる記事を滿載せり(二十五錢東京京橋區 東京社)

▲雄辯(十月號) 內容と體裁とを完備して秋季特集に異彩を放つ(五十錢東京本鄉區駒込坂下町 大日本雄辯會)

讀者の領分

▲小生は[illegible]して動く中なる他申來石案に係り[illegible]り獨立し度し(廿一青年)

▲世は物價騰貴の爲各階級を通して生活の不安に襲はれ居る時、家賃值上の問題は貴社丹に騷擾等の攻擊手段にて其の目的を達せられしは一般の痛快とする處なり、しか大和町の某近頃突然三割值上の通告を出した各借家人は惱み居んで忍び居る由此の無慈悲は何とかして官界から察らうではないか(憤慨生)

▲小生僕座骨神經痛にて種々治療せしも其効なく既に半歲の久しき間悶々の內に消光し候若し本病に對する最適藥御承知の御方は本欄にて御教示被下候へば此上もなき幸福に御座候(ケイエス生)

▲某病院の看護婦さん貴嬢は少しつゝしみ玉へ野志弧の〔○〕の有無で取扱の加減をする質に君は職務にあるまじき事をする彼の樣に評判のよき病院桃にも院長も君のために汚名を受く開後気を付け給へ(六地見聞生)

▲大便所に蛆虫發生せる不潔不快は御同感是れが絕對驅除に大有効法あり秘密なれ共一般に放すそは桐の葉を入るるにあり葉のなき時の用意には此頃の落葉を乾燥し置き使用せよ無代價にて是程有效のものなし試驗せられよ(喚醒生)

◎食糧輸出大勢

圓二千圓なりしが開戰以來漸次增加して昨年は糧食品七千三百四十 [illegible]

本年一月以降七月末に至る食糧品價格の騰貴により幾分金額を增大 [illegible] 輸出累計は糧食品六千三百二萬六 [illegible] より二雜も食糧品輸出の年々

一千八百七十六萬五千圓落花生二 [illegible] 百五十二萬圓小麥粉一千百七十六 [illegible]

從事員の不足よりする通信の不備 [illegible] 話は依然として暗の如く青島內地 [illegible]

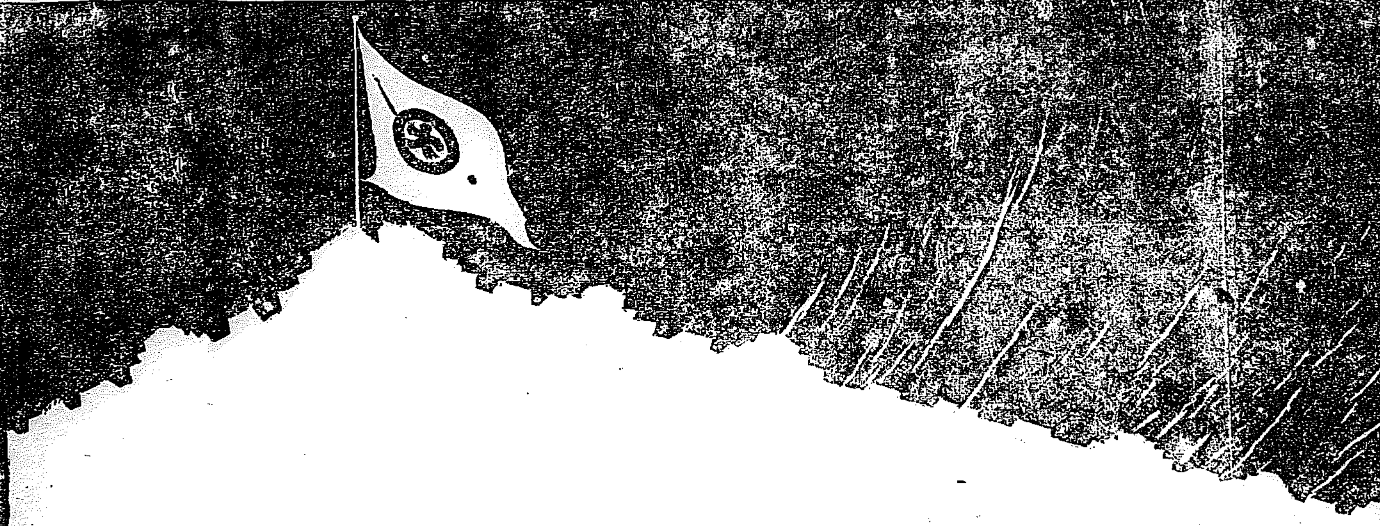
從の外なからんが通信部にては北 [illegible] の間に於て向能ふ限りの方法を講 [illegible]

仁川 期米

[illegible]

十月一日より五日まで

新築大賣出し



大方各位の御恩眷により、舊店舖も日に狹隘と不便を覺へ、爲めに今春、餘儀なく起工致せし弊店の新築竣成を告げ、陳列場の擴大と營業科目の增設とによりて、商品の充實と利便の增進を齎し得たるは一に是れ、各位の深き御同情の賜と、茲に、恭しく奉感謝候。

愈來る十月一日より新館に於て營業を開始仕り候については、何卒倍舊の御愛顧を蒙り、陸續御來店の榮を賜はらむ事を伏して奉希上候。

御弊店、從來賣出しの際呈上致せし景品は、現代の要求によりて、此度是れを全廢し、極力商品の仕入に注意し、層一層價格の低廉を期するは各位の御便益と存じ候間、悪しからず御諒承の程偏に奉願上候。

各御地方よりの御註文は、特に迅速に御取扱ひ申すべく候間多少に拘らず御用命被下度御願奉申上候

十月一日より十五日まで 新柄陳列會

十月十七日より二十二日まで 誓文拂賣出し

十月十七日より三十日まで 婚禮用品陳列會

大阪心齋橋

大丸呉服店

振替口座大阪三八四番